

3.2 油脂原料作物

3.2.1 大豆

1). 生産

表 99 大豆：1990年の生産実績

州別	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	生産量 / 1,000t	単収 / kg/ha
リオ・グランド・プリンス	3,521.5	3,516.0	6,313.5	1,796
ハロワ	2,269.6	2,267.6	4,649.8	2,050
マシ・グロウ	1,552.9	1,527.8	3,064.7	2,006
マシ・グロウ・プリンス	1,286.4	1,256.5	2,038.6	1,622
コックス	1,001.7	972.4	1,258.4	1,294
サマ・ハロワ	561.2	561.2	937.2	1,670
ミナス・エスタ	569.1	558.4	748.8	1,341
サマ・カリア	370.0	366.1	537.4	1,468
ハイ	360.0	360.0	220.4	612
ブラー	53.5	53.5	79.6	1,487
その他	38.8	31.6	39.2	1,241
全国計	11,594.7	11,481.1	19,882.6	1,732

出所：189E

表 100 大豆：1991年の生産状況(91年1月調査)

州別	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	生産量 / 1,000t	単収 / kg/ha
ハロワ	1,930.0	1,930.0	3,490.0	1,808
マシ・グロウ	1,118.8	1,111.5	2,628.9	2,365
リオ・グランド・プリンス	3,132.1	3,116.6	2,220.5	712
マシ・グロウ・プリンス	1,072.0	1,064.8	2,017.7	1,895
コックス	800.8	797.7	1,661.3	2,082
ミナス・エスタ	474.9	474.7	776.8	2,057
サマ・ハロワ	500.0	500.0	967.5	1,935
ハイ	210.0	210.0	441.0	2,100
サマ・カリア	267.9	261.7	249.5	753
ブラー	43.1	43.1	101.2	2,348
その他	9.0	9.0	16.7	1,878
全国計	9,558.6	9,519.3	14,771.3	1,552

出所：189E

189Eのデータによると 89/90農年の大豆生産量は 19.9百万トンで前年に並べた史上最大の収穫量 240百万トンと (-) 17.2% 落ちたものであった。この生産減少は作付に対する融資の不足からその面積が (-) 6% 減少したからに加え、単位面積当りの収益が前年に並べた 1,977kg/ha から 1,732kg/ha と大きく低下したからであった。反収の低下は生産資材使用の減少と天候不順によるものであった。

このように低調な生産実績は 90/91年にいって更に悪化し、その収穫量は前年比 (-) 27%、88/89年と比較すると更に (-) 61% の落ち込みで 14.8百万トンに止まった。

このように生産の低下は、前年を同じく国内外価格の低迷と公共投資の不足、生産者資本の極度の減少にもつともで作付能力が落ちていくところに加え、作付期長で将来の市場が好転する見通しがなく、地味作物とくにとうもろこしの切換えが行われていくこと、更に生育期の後半に国内生産の半分以上を占める南部地方が、長期乾燥の被害によって単位面積当りの収量を極度に落しこんでいった。

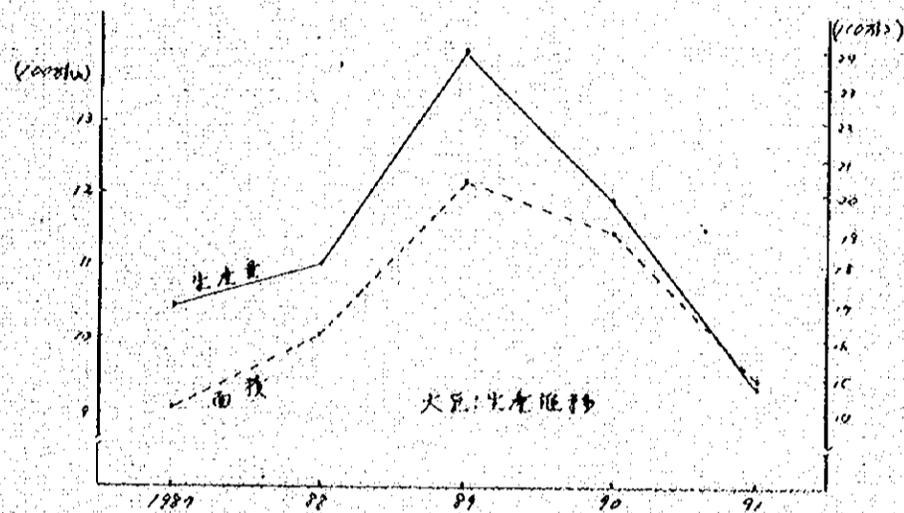


表 101 大豆:過去5年間の生産推移 (単位:1,000t)

州別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	3,810.0	4,800.0	5,060.0	4,699.8	3,490.0
東北	2,389.0	2,694.7	3,775.4	3,064.7	2,628.9
関東	4,995.2	3,631.3	6,776.3	6,313.5	2,220.5
中部	2,283.7	2,480.5	2,845.8	2,038.6	2,017.7
近畿	1,064.7	1,498.0	2,155.8	1,258.4	1,661.3
中国				708.8	976.8
四国				1,813.8	1,776.1
全国計	16,962.0	18,016.2	24,071.4	19,882.6	14,771.3

収穫面積 (1,000ha)	1987	1988	1989	1990	1991
面積	9,134.3	10,520.0	12,211.2	11,481.1	9,519.3

出所:189頁

表 102 大豆:主要生産地の収収 (単位:kg/ha)

州別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	2,270	2,270	2,106	2,050	1,808
東北	2,178	2,043	2,228	2,006	2,365
関東	1,582	1,057	1,716	1,796	712
中部	1,984	2,109	2,191	1,622	1,895
近畿	1,752	1,937	2,057	1,294	2,082
中国				1,341	2,057
全国平均	1,858	1,713	1,971	1,732	1,552

出所:189頁

ロ) 国際市場とアラビヤの輸出

IEA(サンパウロ州農務局農業経済研究所)のOIL WORLD WEEKLYのデータとを
発表したところによると 90/91農年に別れる10大油脂原料作物の世界生産量は前年比1.6%増の215.2百
トン、又この生産量に前年比の繰越在庫28.5百トンを加えて世界の供給量は前年比1.7%上廻る
243.7百トンと推定されている。

これに対する90/91農年の世界消費量も前年比2.5%増加する216.3百トンに増えたため供
給量の増加分は相殺され、期末在庫量も減少することとなる。

91/92農年の見通しについては供給量の90/91年度をわずかに1%増加する245.5
百トンに据える予想が示されている。主要作物の中では前年比に比してオイルパーム(8.6%)落
花生油(4.2%)、綿実油(3.9%)、菜種油(3.8%)、大豆油(1.2%)等の増産が見込まれている。

この世界供給量は世界最大の大豆生産地帯である米国の開花期に乾燥の被害を受け
同国の主要生産地帯で収量の減少があったため当初の予想を大幅に下廻る結果となる。

91/92農年に別れる世界の消費量は218.1百トンで生産量と全く同一であり、期末在庫も又
前年と同等の27.4百トンと予想されている。

表 10) 10大油脂作物の世界需給

区 分	1988/89	1989/90	1990/91	1991/92 (※)
期首在庫	27.4	27.7	28.5	27.4
世界生産量	202.3	211.9	215.2	218.1
供給総量	229.7	239.6	243.7	245.5
世界消費量	202.0	211.1	216.3	218.1
期末在庫	27.7	28.5	27.4	27.4

出所: OIL WORLD WEEKLY ※予想

このような需給関係のもとで、89年下半期以降国際相場の変動は少く、ロンドンC/F油
格でトン当り\$250前後の価格に継続している。今後の相場変動は世界の生産と需要動
向によって決定されていくが生産面では世界最大のシェアを持つ米国の動向が大きな影響する。
米国の生産についてはUSDAが91年8月に行った調査では50.9百トンと推定されており、前年を(-)
2.7%下廻る予想のため、これが主要な要因として価格に変化を与える要素となるものと推定されている。

このような情勢下でUSDAでは91/92農年における米国の生産者受取価格をブールが\$4.85か
ら\$6.85の間で前換するものと予想している。

地方需要面では91年上半期に大豆及び副産物取引の減少を引き起こした世界経済

活動の後退もわすかしの回復をみられることから、大豆及大豆副産物への需要も次第に高まってく
るものと思われる。又ソ連の解体と新体制への移行が政治的に大きな混乱も招き行われ、これは
新体制の食糧買付けに対する米、EC及日本等からの資金融資を早期に実現させるものと考え
られ、これが食糧需要と引き合わせ、ソ連が大量の消費を行ってきた大豆及大豆副産物の需要
を増大させ価格に影響を与えるものと予想される。

91年の下半期における相場が魅力的なものとなる場合、南米諸国とくにブラジルの作付けを削減
し供給の均衡が図られていくことと見らる。

表 104 大豆(豆)の国際相場 (CIF ロンドン)

月別	1987	1988	1989	1990	1991
1	200	254	318	242	239
2	198	254	307	240	241
3	199	257	313	242	244
4	207	270	297	247	245
5	221	285	297	259	241
6	229	253	291	249	241
7	222	351	272	252	229
8	215	342	276	250	...
9	214	337	277	250	...
10	217	313	238	248	...
11	228	313	246	239	...
12	240	313	248	244	...

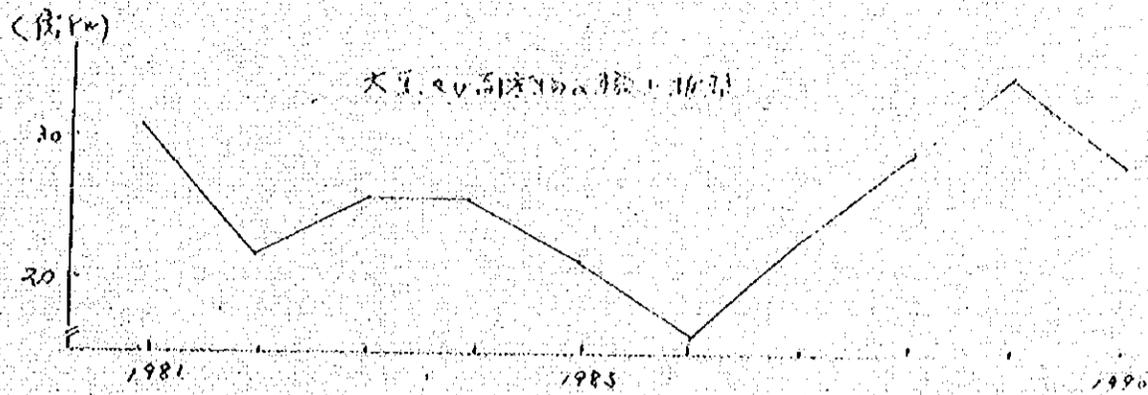
出所: OIL WORLD WEEKLY

(ブラジルの大豆及大豆副産物輸出)

表 105 大豆及大豆副産物の輸出実績

年度	大豆(豆)	大豆粕	大豆油	計
1981	404	2,163	545	3,112
82	123	1,668	379	2,170
83	309	1,793	461	2,563
84	454	1,460	651	2,565
85	363	1,175	602	2,140
86	243	1,198	138	1,579
87	570	1,450	304	2,324
88	728	1,292	294	2,314
89	1,138	1,750	395	3,283
90	910	1,610	321	2,841

出所: CACEX, DECEX



1990年度に於ける大豆及び副産物の輸出は、原料生産の減少を反映して大豆(豆)、大豆粕及び大豆油のすべてに於いて重量、金額とも前年比減少を記録した。但し90年の国内情勢が製品輸出に与えてきた悪影響は、とくにコロン政権への移行後、長期にわたって継続的に厳格な輸出規制に於ける輸出の拡大評価は、輸出の困難とされている。この状況下での異変としては、良好な成果であったといえる。大豆及び副産物の輸出総額も前2年には劣るものの、80年代を通じて81、88及び89年に次ぐ4位の輸出額を平均額を上回るものであった。

大豆及び副産物の輸出先市場には大変化は無く、大豆(豆)に於いてオランダ、日本、スペイン、イタリー、大豆粕では、オランダ、フランス、スペイン、イタリーと前年と同様の輸出先国が上位を占めており、大豆油は、米国の輸入の減少、中国が大量の買付けを行っており、これらが主要な市場構成となっている。

DECEX(外国貿易局)のデータによると大豆及び副産物の輸出実績は下表の通りである。

表 106 大豆(豆)の輸出推移

年度	重量 1000t	金額 100万t	平均価格 usd/t
1981	1,450	404	277
82	500	123	246
83	1,295	309	239
84	1,561	454	291
85	3,491	763	218
86	1,200	243	202
87	3,024	570	188
88	2,577	728	280
89	4,618	1,154	249
90	4,077	910	223

出所: CACEX DECEX

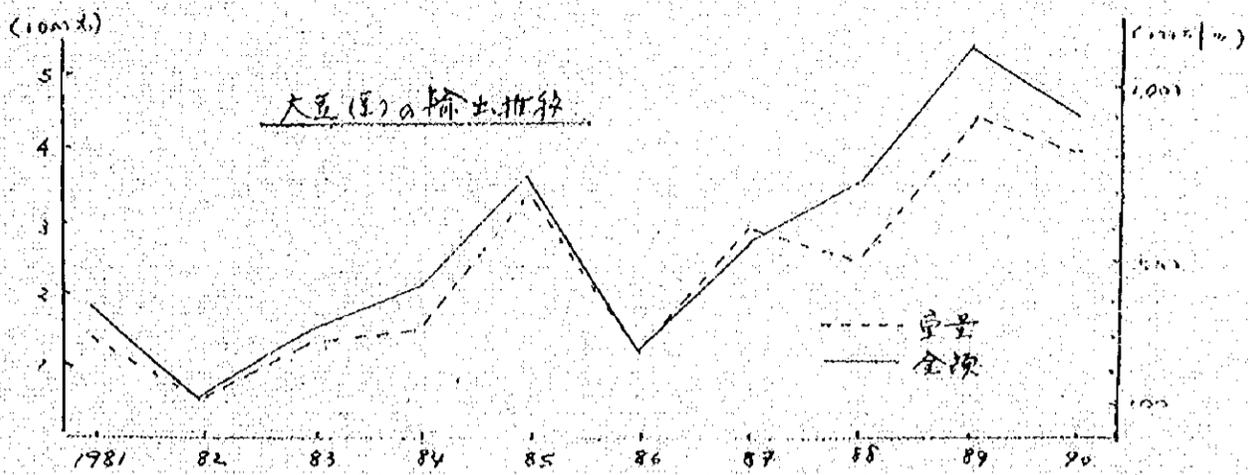


表 107 大豆(豆)の輸出先市場(1990年)

輸出先国	重量 1,000t	金額 100万円
オランダ	1,488.7	331.0
日本	733.8	164.6
スロバキア	488.1	109.3
イタリヤ	266.6	57.9
ベルギー	225.5	50.7
西独	189.5	42.1
フランス	134.2	30.7
韓国	111.6	24.7
ルーマニア	96.0	21.4
スイス	74.7	17.2
その他	268.6	10.4
計	4,077.3	910.0

出所: DFCFX

表 108 大豆粕の輸出推移

年次	重量 1,000t	金額 100万円	平均単価 円/t
1981	8,886	2,176	240
82	7,954	1,668	210
83	8,493	1,793	211
84	7,587	1,460	192
85	9,588	1,175	123
86	6,666	1,198	180
87	7,802	1,450	186
88	8,129	2,023	249
89	9,571	2,136	216
90	8,744	1,610	184

出所: CACEX, DFCFX

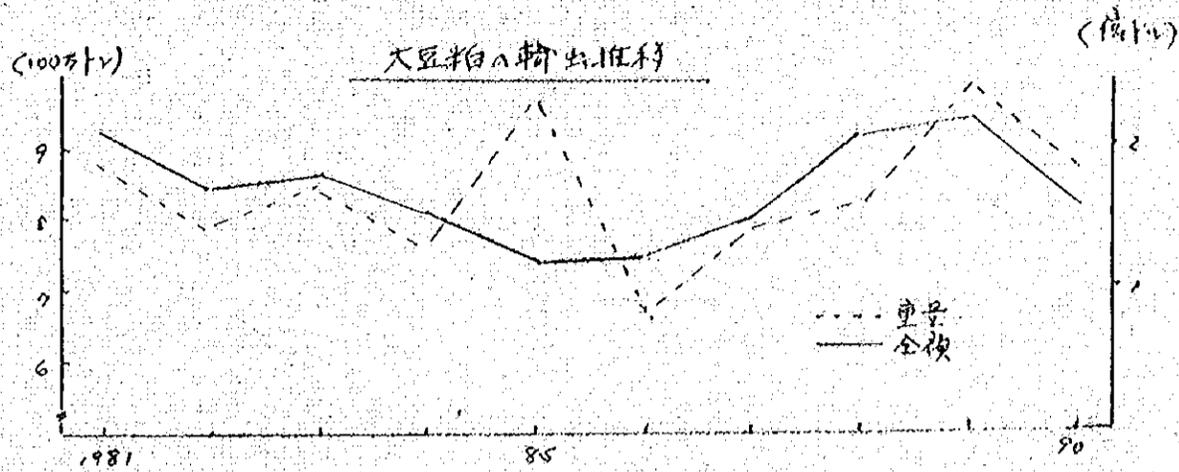


表 109 大豆粕の輸出先市場 (1990年)

輸出先国	重量 1,000t	金額 100万円
オランダ	1,831.8	344.1
フランス	1,604.8	307.3
イギリス	1,134.1	207.4
スペイン	1,077.5	192.6
ハンガリー	744.2	138.0
ベルギー	546.6	101.6
西独	500.5	88.3
ネパール	196.8	34.0
ユーゴスラビア	177.0	31.0
南アフリカ連邦	107.7	20.2
その他	823.3	151.9
計	8,744.5	1,610.5

出所: DECOP

表 110 大豆油(粗油)の輸出先市場 (1990年)

輸出先国	重量 1,000t	金額 100万円
中国	293.5	122.0
インド	178.0	74.5
バングラデシュ	98.0	32.7
タイ	46.7	19.6
オランダ	25.6	10.7
デンマーク	22.8	9.6
パナマ	17.8	7.3
ドミニカ	12.9	5.1
マレーシア	11.9	4.8
米	11.0	4.7
その他	33.5	30.4
計	771.9	321.4

出所: DECOP

9	21.78	746.83	4,806.93
10	44.48	945.10	7,018.29
11	64.09	1,753.62	7,471.47
12	101.23	1,441.41	

単位：1EA

表 112 大豆：生産者受取価格(実質価格)推移 CR/60kg

月別	チクワラ子トスル川			川ノハコワコ川		
	1989	1990	1991	1989	1990	1991
1	6.126	7.794	3.012	6.598	3.186	3.310
2	5.740	7.787	3.303	6.153	3.120	3.420
3	5.507	7.566	3.528	5.820	2.730	3.316
4	5.475	7.429	3.326	5.566	2.725	3.338
5	5.277	7.212	3.407	5.151	2.993	2.277
6	4.330	7.515	3.204	4.558	3.802	3.006
7	3.865	7.617	...	4.032	2.922	...
8	3.097	7.720	...	3.078	2.828	...
9	3.567	7.418	...	3.374	2.608	...
10	3.420	7.665	...	3.280	2.891	...
11	3.255	3.376	3.215	...
12	3.343	3.341	...	3.569	3.223	...

単位：1EA

国家供給公社が発表した大豆の常給バラス・ストックと 91/92(91年2月～92年1月)農年における大豆の国内供給量は、91年2月現在前年同月を越えられたストックの794.5千トンの減産を以て14.6百トンの生産量と500千トンの輸入品を加えて15.8百トンと推定されている。

大豆及び副産物の輸出については大豆(豆)に於いて1.8百トン、大豆粕が6.9百トン、大豆油が400千トンと予想されているがこれは90年の輸出実績と比較してそれぞれ(-)53.8%、(-)22.5%及び(-)4.5%の大幅減少となる。

91/92農年における消費量寸上の原料として処理される大豆の量は13.6百トンの予定であり前年を(-)19.5%と大きく減少する見込みが予想されている。又大豆粕の国内消費量は前年を44%上回る3.1百トンの予想である。これは91年中に牛肉価格が上昇したこと、消費者の購買力低下により豚肉、豚肉への需要転換が顕著なことから養豚、養豚活動の活発化に伴う飼料需料が増加し大豆粕の買付を促しているためである。大豆油の国内消費量は91/92年には人口の増加に伴い2.6百トンに達するものと予想されている。

大豆及び副産物の輸出減少見込にかかわらず90/91農年の期末在庫に446.5千トンと見込まれている。この量は過去2年と比較して非常に低いものであり、今後の価格動向に大豆の影響を与える要素となる。このため92当初に次期収穫物の取入れ開始の時期、価格の上昇を予想させるものがある。

この状況は、米国の生産力減産予定の前に上昇した91年下半期の国際価格動向と共に、次期作
 物に対するある程度の警戒料として示す。

表 113 大豆：輸出バリエーション

項目	1,000t					
	1985/86	86/87	87/88	88/89	89/90	90/91
基準月日	86年2月10日	87年2月10日	88年2月10日	89年2月10日	90年2月10日	91年2月10日
期首在庫	849.0	783.0	442.0	475.0	1,493.2	794.5
生産量	13,997.0	17,072.0	18,127.0	23,929.0	20,101.3	14,552.0
輸入量	240.0	450.0	67.0	63.0	0.0	580.0
供給量計	15,186.0	18,205.0	18,631.0	24,462.0	21,594.5	15,846.5
消費量	13,710.0	14,860.0	15,545.0	19,389.0	16,900.0	13,600.0
余剰	1,976.0	3,445.0	3,086.0	6,073.2	4,694.5	2,246.5
輸出量	1,173.0	3,003.0	2,611.0	4,585.0	3,900.0	1,800.0
期末在庫	783.0	442.0	475.0	1,493.2	794.5	446.5

出所：CNA

ITA(サンパウル州農務局、農業経済研究所)が91年3月に発表した91/92農年の生産コスト平根によると1ヘクタール(60kg入)あたりのコストは同州リバイロン・ゾレト地方に於いてCR 2,598.28、又マ
 リヤ地方でCR 2,315.54と示している。政府が設定している最低保証価格のCR 2,761.20は、これらの
 コストに対してそれぞれ106.3%及び119.3%の割合であり、最低価格がコストをカバーしては、若干の生
 産者収益を必ず余格を持つ形となっており、大豆の最低価格が満足する水準で設定されている
 ことが示されている。但し以後収穫時のコストがとくに変動していくため、これに対する最低価格の調
 整が必ずそれに平行していくか否かの大豆の疑問は残されている。

表 114 大豆：91/92農年の生産コスト平根(A)
 サンパウル州、リバイロン・ゾレト地方、1haあたり35株(60kg)収穫の場合機械化耕作

項目	1haあたりコスト	1kgあたりコスト	償賦比率(%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	7,040.00	201.14	7.74
b) 種子	10,606.50	303.04	11.66
c) 肥料・石灰	21,952.60	627.22	24.14
d) 農薬	2,574.27	73.81	2.83
e) 機械燃料費	27,504.94	785.86	30.25
f) 運搬費	2,450.00	70.00	2.69
小計	72,128.41	2,203.67	84.91
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	11,550.61	330.02	12.70
b) 金融費用	2,260.88	64.60	2.49
小計	13,811.49	394.62	15.19
合計	90,939.89	2,598.28	100.00

出所：IEA

表 115

大豆：91/92 農年の生産・コスト (B)

サントラ州 2997 地区, 1ha 別 35 俵収穫の場合 機械化耕作

項目	1ha 別コスト	1俵別コスト	播収比率 (%)
A) 直接コスト			
a) 労賃	5,113.00	146.10	6.31
b) 種	9,000.00	257.14	11.11
c) 肥料, 石灰	19,080.00	545.14	23.55
d) 農薬	11,701.00	334.31	14.44
e) 機械維持費	22,206.84	634.48	27.41
小計	67,106.84	1,917.17	82.83
B) 間接コスト			
a) 機械減価償却費	10,136.91	289.34	12.50
b) 金融費用	3,270.65	108.02	4.67
小計	13,407.56	397.36	17.17
合計	81,009.06	2,314.54	100.00

採所: IFA

3.2.2 落花生

表 116

落花生：1990年9生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
サントラ州	68.5	68.5	121.3	1,771
オクアラ州	5.1	5.1	5.8	1,137
ハイチ	2.4	2.4	3.5	1,458
ハイチ	2.5	2.4	2.6	1,083
セルビア	1.1	1.1	1.2	1,091
ハイチ	1.4	1.1	1.1	1,000
その他	1.9	2.0	1.6	800
全国計	82.9	82.6	137.1	1,660

表 117

落花生：1991年9生産状況(91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
サントラ州	23.8	23.8	123.8	1,678
オクアラ州	5.0	5.0	4.3	867
ハイチ	3.1	3.1	3.7	1,206
ハイチ	2.4	2.4	3.1	1,291
セルビア	1.3	1.3	1.4	1,102
ハイチ	1.2	1.2	1.2	1,031
その他	2.2	2.1	2.1	1,143
全国計	39.0	38.9	139.6	1,570

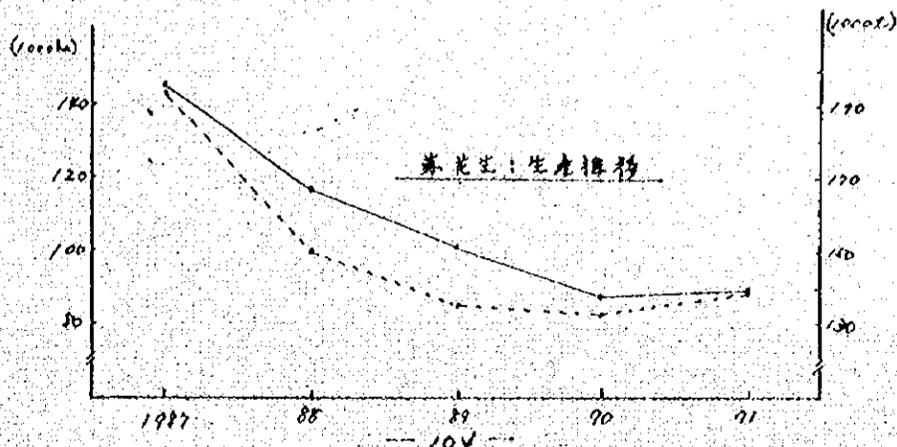


表 118 落花生：過去5年間の生産推移 /1000t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サトウハロパン	164.9	145.3	133.1	121.3	123.8
秋田県	5.7	5.6	5.7	5.8	4.3
山形県	3.7	3.4	3.3	2.6	3.7
北海道	11.5	5.5	3.8	3.5	3.1
七河	1.3	1.5	1.2	1.2	1.4
その他	9.0	5.8	4.0	2.8	2.1
全国計	196.1	167.0	151.1	137.2	139.6

収穫面積 /1000ha

	1987	1988	1989	1990	1991
	143.6	99.9	85.5	82.8	88.9

出所: 189E

表 119 落花生：主要生産地の反収 kg/ha

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サトウハロパン	1.413	1.796	1.901	1.771	1.678
秋田県	1.017	1.060	1.146	1.137	2.67
山形県	1.275	1.110	1.178	1.023	1.206
北海道	1.493	1.628	1.520	1.458	1.291
七河	9.28	1.143	9.23	1.091	1.102
全国平均	1.366	1.672	1.767	1.658	1.570

出所: 189E

表 120 落花生：生産者受取価格 円/25kg

月 別	1989	1990	1991
1	9.30	75.21	1.322.93
2	10.95	120.75	1.383.72
3	11.61	189.75	1.507.44
4	12.09	212.77	2.189.80
5	12.40	303.45	2.298.60
6	19.85	521.63	2.605.07
7	20.65	600.96	2.821.64
8	25.32	759.17	3.107.21
9	29.13	1.072.31	3.758.33
10	34.01	1.164.23	4.907.60
11	43.72	1.124.96	7.577.75
12	66.54	1.258.90	

出所: 1EA

表 121 落花生：輸出実績 1000t

品 目	1988/89	1989/90	1990/91
落花生(粗油及搾油)	2.6	3.2	3.6
落花生油(粗油及搾油)	8.5	12.0	11.0
大豆粉	2.6	6.0	6.4

出所: 16A

3.2.3 綿

1) 生産

表 125 綿(草綿) 1990年の生産実績

州別	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	生産量 / 1,000t	単収 / kg/ha
北海道	490.0	470.0	852.6	1,740
青森県	200.8	200.8	480.1	1,596
岩手県	196.5	186.4	169.4	587
宮城県	134.2	129.9	94.5	727
秋田県	44.8	44.6	73.6	1,650
山形県	25.5	25.5	53.6	1,327
各府県	206.4	196.3	191.7	544
全国計	1,508.2	1,383.5	1,724.5	1,283

出所: 189E

表 126 綿(木綿) 1990年の生産実績

州別	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	生産量 / 1,000t	単収 / kg/ha
北海道	198.5	198.5	18.8	95
青森県	138.9	124.7	9.0	72
岩手県	82.2	71.7	3.9	55
宮城県	97.1	78.1	3.8	49
秋田県	42.2	37.5	2.4	63
山形県	1.3	1.3	0.3	230
全国計	560.2	511.8	38.2	75

出所: 189E

表 127 綿(草綿) 1991年の生産状況(91年9月調査)

州別	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	生産量 / 1,000t	単収 / kg/ha
北海道	600.0	600.0	750.0	1,583
青森県	221.5	221.5	341.3	1,541
岩手県	119.5	118.5	106.9	903
宮城県	20.3	23.8	91.3	1,238
秋田県	53.2	52.3	88.6	1,673
山形県	43.2	43.0	83.7	1,946
各府県	309.7	301.2	171.6	570
全国計	1,421.4	1,410.3	1,833.4	1,300

出所: 189E

表 128 綿(木綿) 1991年の生産状況(91年9月調査)

州別	作付面積 / 1,000ha	収穫面積 / 1,000ha	生産量 / 1,000t	単収 / kg/ha
北海道	153.7	153.6	18.6	121
青森県	58.4	58.4	14.7	252
岩手県	94.4	93.9	8.4	89
宮城県	23.2	23.2	4.9	211
秋田県	32.5	29.4	3.3	114
山形県	0.7	0.6	0.2	333
全国計	362.9	359.1	50.1	140

出所: 189E

1990/91年度における綿の生産量は、中央・南部地方で生産される単作の1,823トンと東北地方の4で栽培される永年性の木綿の50トンと計1,873トンで前年を3.3%上廻った。主要生産地帯のうち、サレハロ州の大増産と、以外には増産もしくは前年並みの生産量を維持した中で、マト・カロン州における顕著な増産が観察される。これは、90/91農年に実施された農業政策の中で、最低価格保証制度が変更され、地方での穀類生産の不利な立場に置かれたり、綿に代って農場の多くが現れたためである。ハロ州に次いで全国二位の生産規模を持つサレハロ州における減産は、農業融資の不足に加え、収穫時の天候が悪く、栽培面積、反収のいずれにおいても減少したためである。その生産量341.3万トンは、80年代を通じ最低の線に落ちている。

表 129 綿(単作):過去5年間の生産推移 (1,000 t)

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
ハロ州	711.7	874.2	805.8	852.6	950.0
サレハロ州	567.1	675.2	513.5	450.1	341.3
ミナ・バライ	60.0	135.2	78.0	109.4	106.9
マト・カロン					91.3
マト・カロン・バライ	68.0	73.5	78.5	73.6	88.6
その他					255.3
全国計	1,613.1	2,432.8	1,813.4	1,724.5	1,823.4

収穫面積 1,000ha: 1,227.3 (1987), 1,824.6 (1988), 1,506.8 (1989), 1,383.5 (1990), 1,410.3 (1991)
 反所: 100%

表 130 綿(木綿):過去5年間の生産推移 (1,000 t)

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
セアラ	23.7	41.2	25.8	18.8	15.6
ハライ	8.9	19.3	8.7	3.7	14.7
バライ	16.6	13.7	6.4	1.0	3.4
バライ・バライ	3.0	14.2	12.1	3.8	4.9
ハルカマ	3.9	8.6	2.2	2.4	3.3
その他	16.3	2.3	1.9	0.3	0.2
全国計	69.3	99.3	57.1	38.2	50.1

収穫面積 1,000ha: 691.1 (1987), 724.4 (1988), 618.6 (1989), 511.8 (1990), 559.1 (1991)
 反所: 100%

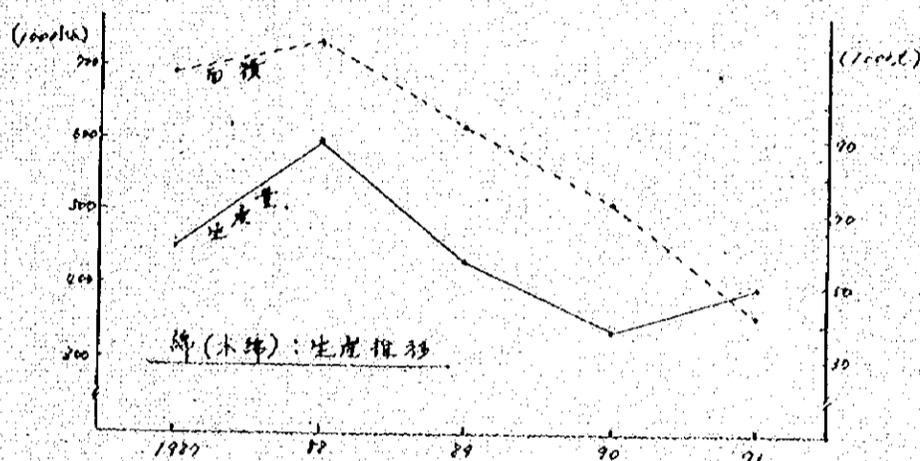
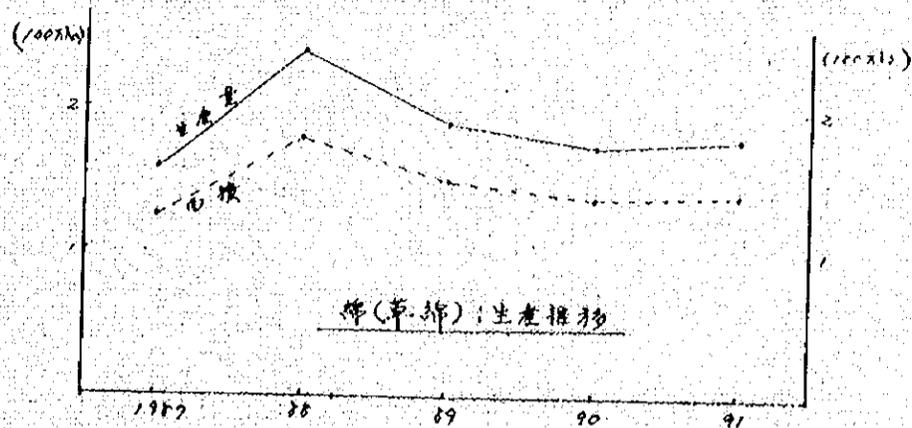


表 131 綿(草綿):主要生産地1反収

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	1.844	1.860	1.940	1.740	1.583
青森県	1.743	2.023	1.889	1.596	1.541
岩手県	456	833	616	727	902
秋田県					
山形県	1.351	1.468	1.728	1.650	1.288
福島県	1.263	1.226	1.203	1.283	1.300
全国平均					

出所: 1992

表 132 綿(木綿):主要生産地1反収

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	88	104	113	95	121
青森県	81	184	94	55	252
岩手県	103	84	40	72	89
秋田県	40	138	120	49	211
山形県	66	144	83	63	114
福島県	66	144	83	63	114
全国平均	87	135	76	75	140

出所: 1992

ロ) 国際市場

USDAのデータによると 90/91農年における世界の綿生産量は 86.65百万包で前年比 8.3%上昇した。世界の主要生産国では、米国(前年比 27.0%増) 中国(25.0%増) 中国(17.8%増) ハンガリー(12.4%増) などの生産増加があった。ソ連は前年の生産量比(-) 5.4%減少した。大半の生産国にみられる生産の増加は、国際相場の上昇にもとづいており、中国を除く外は、大型の輸出国であるため、国際相場の上昇から生産を左右する鍵となる。中国のみは、国内生産量のほとんどが国内で消費されるため、輸出余力は持っていない。

90/91年における世界の供給量は 113.09百万包で前年比 0.9%増加したものの、消費量は 1.0%の減退をみれば供給量の減少により価格は維持された。

表 133 綿(練綿)：世界の供給バランス 100万包(単位)

区分	1989/90	90/91	91/92 *
生産量	89.01	86.65	91.10
供給量	112.06	113.09	118.60
消費量	86.53	85.64	88.00
期末在庫	26.44	27.51	30.00

*NY: USDA

表 134 綿の国際相場 US\$/100lb

年別	1989	1990	1991
1	63.27	71.78	83.58
2	63.02	77.02	85.17
3	65.63	79.26	84.00
4	73.22	81.68	82.99
5	76.92	80.70	83.64
6	78.64	81.48	83.77
7	82.35	83.17	...
8	82.87	81.12	...
9	81.65	81.23	...
10	82.18	81.63	...
11	82.20	82.81	...
12	77.68	83.97	...
平均	75.80	80.72	83.86

出所: WORLD COTTON SITUATION / ICA

1990/91農年における世界の綿取引量は、前年よりも少く、89/90農年の 240百万包に対し、234百万包に止まった。EC & CTR (中国とインドを除く) 諸国の減産によるものがあるが、これに対し米国は輸出を伸ばし、世界の輸出に占めるシェアを 89/90年の 32% 対し 90/91年は 34%へと増加して国際市場における競争力を強化した。これについて

オーストラリアも大輸出国の地位を確立し、従来の輸出国のハルクタンと「カイル」。
 1992年については、CISDAの予想によると、世界の生産量が91.1百万包に達するに供給
 量は前年を4.9%上回る史上最大の規模に達する見込みと行っている。

91/92年度における世界の消費量は88.0^{百万}包と予想されており、前年を2.8%増加す
 る規模となる。しかしこの量は、90/91年における世界消費の減少を回復した程度
 のもので本格的な増加ではない。世界の消費国の中で、TERT (3.2%増) EC
 (-5.2%減) 米国 (2.3%増) 等生産の上下があらわすと予想されている。

世界の貿易量は、前年の23.39百万包より23.60百万包へと若干の増加が予想されるがこ
 れも89/90年の24.00百万包を下回る量である。

このように世界の消費量と生産量の増加に平行せず、期末在庫は9.0%増加する
 見込みのため、92年中には21数年間続いた高値も傾くものと考えられている。

ハ) 国内市場

91年度における綿綿の生産量は698.1千トと推定される。^{注1)}前年より繰越在
 庫及び輸入と加之の供給量は878.7千トで前年を上回る。1986年から89年にか
 ら供給量より不足が少なかった。このため輸入量の増加となり、91年には前年を64.3%上回る
 140千トの輸入が行われるものと推定される。

91年度における綿綿の国内消費量は前年と同様の700千トと推定されるがこ
 の量は1986年以前の消費水準であり、綿織物に対する需要の減退が伺われる。

表 135
 ブラジルの綿綿需給

項目	1987/88	88/89	89/90	90/91
期首在庫	182.1	279.7	100.0	40.5
生産量	863.6	709.3	665.7	698.2
輸入量	81.0	130.0	85.2	140.0
供給量	1124.7	1119.0	850.9	878.7
消費量	812.0	859.0	700.0	700.0
余剰	314.7	260.0	150.9	178.7
輸出量	35.0	160.0	110.4	80.0
期末在庫	279.7	100.0	40.5	98.7

出所: CONAB

表 136 单位: 元/亩 年份: 1989, 1990, 1991

月 别	1989	1990	1991
1	4.33	87.26	941.27
2	5.35	146.57	1,216.79
3	5.31	284.67	1,532.67
4	6.77	239.78	1,107.74
5	8.97	345.77	1,628.67
6	9.70	379.65	1,685.98
7	10.32	419.26	1,816.50
8	14.26	527.51	2,000.54
9	21.22	550.19	2,183.06
10	31.23	572.17	2,651.49
11	38.77	611.31	3,103.38
12	53.00	620.37	

资料来源: IEA.

八) 生产资料

中国农村经济调查队, 农业经济研究 (IEA) 91年8月北京会议 91/92 表 137 表 138

十于表 137 表 138 的说明:

表 137 年份: 91/92 年生产资料 (A)

项 目	1989年 221	1990年 221	指数比 (%)
A) 直接成本			
a) 劳 费	26,223.84	180.85	7.11
b) 控 子	13,675.20	94.31	1.71
c) 肥料 石灰	126,497.00	874.46	39.36
d) 农 药	20,201.93	139.32	5.48
e) 机械维修费	63,125.96	435.35	17.11
f) 水费 电费	72,500.00	500.00	19.65
小 计	322,523.93	2,224.30	87.41
B) 间接成本			
a) 机械折旧费	25,183.91	173.68	6.83
b) 金融费用	21,274.20	146.72	5.77
小 计	46,458.11	320.40	12.60
合 计	368,982.10	2,544.10	100.00

资料来源: IEA 中国农村经济调查队, 农业经济研究, 1989年10月北京会议

表 138 年份: 91/92 年生产资料 (B)

项 目	1989年 221	1990年 221	指数比 (%)
A) 直接成本			
a) 劳 费	51,291.20	625.50	15.49
b) 控 子	15,892.80	193.81	4.80
c) 肥料 石灰	170,840.48	565.91	21.38
d) 农 药	30,395.00	370.67	9.18
e) 机械维修费	62,728.47	764.98	18.94
f) 水费 电费	51,660.00	630.00	15.60
小 计	282,807.95	3,448.88	85.28
B) 间接成本			
a) 机械折旧费	25,352.04	309.17	7.65
b) 金融费用	23,055.10	281.16	6.95
小 计	48,407.14	590.33	14.60
合 计	331,215.09	4,039.21	100.00

资料来源: IEA 中国农村经济调查队, 农业经济研究, 1989年10月北京会议

3.2.4 エマ

表 138

エマ: 1990年の生産実績

川別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
ハ イ ア	204.5	204.5	100.3	491
サマハロロ	12.5	12.5	16.5	1,319
ハルヲゾコ	28.6	27.4	12.3	230
ハロヲナ	3.9	3.9	5.8	1,474
セアヲ	15.3	11.3	5.7	503
ヒアヲイ	13.7	13.7	4.8	248
ミナス、エマ	2.7	2.5	2.1	822
その他	0.5	0.5	0.2	400
全国計	296.7	286.3	142.7	516

出所: 189E

表 139

エマ: 1991年の生産状況(91年9月調査)

川別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
ハ イ ア	165.5	161.8	85.4	528
サマハロロ	11.7	11.7	12.9	1,103
セアヲ	14.1	14.1	11.2	798
ヒアヲイ	10.4	10.1	10.3	1,014
ハルヲゾコ	41.2	30.6	8.1	265
ハロヲナ	3.1	3.1	4.1	1,323
ミナス、エマ	0.6	0.6	0.6	963
その他	0.7	0.7	0.5	714
全国計	247.3	232.7	133.1	572

出所: 189E

表 140

エマ: 過去54年間の生産推移

川別	1987	1988	1989	1990	1991
ハ イ ア	51.0	72.8	62.8	100.3	85.4
サマハロロ	21.2	16.4	16.1	16.5	12.9
セアヲ	3.4	13.1	11.6	5.7	11.2
ヒアヲイ	2.0	8.7	14.6	4.8	10.3
ハルヲゾコ	2.8	15.6	18.4	12.3	8.1
ハロヲナ	17.0	12.6	7.9	5.8	4.1
その他	8.4	8.7	4.1	1.3	1.1
全国計	108.6	147.9	135.5	142.7	133.1

収穫面積 1,000ha	1987	1988	1989	1990	1991
	262.5	278.9	269.1	286.3	232.7

出所: 189E

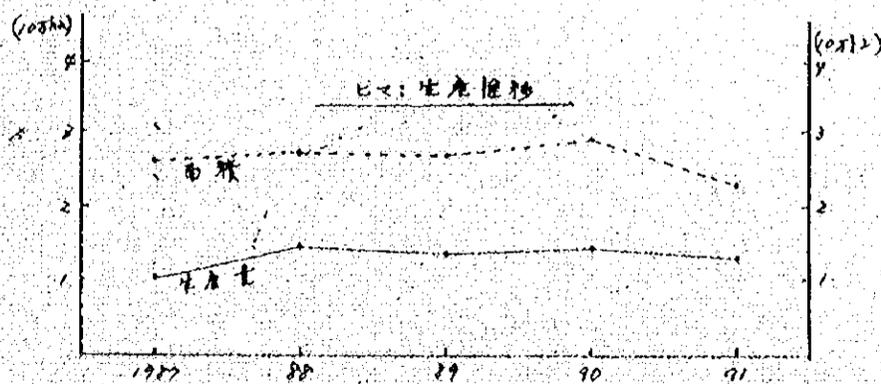


表 141 ヒマ: 主要生産地の収収

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バ イ ア	286	290	256	491	528
サンパウ	1,269	1,265	1,247	1,319	1,103
セ ア ラ	326	291	515	503	298
ピ ア フ	131	692	1,057	348	1,014
ノルマニ	115	570	512	330	265
パ ラ ナ	1,228	1,274	1,408	1,474	1,323
全国平均	395	520	496	516	572

出所: IBGF

表 142 ヒマ: 主要生産地の価格

州別	1989	1990	1991
1	0.17	3.40	21.22
2	0.22	4.89	28.00
3	0.26	6.84	29.50
4	0.26	7.75	30.10
5	0.29	11.00	44.78
6	0.36	13.40	49.22
7	0.45	14.70	57.90
8	0.69	17.50	54.67
9	0.95	16.78	66.26
10	1.34	11.79	68.53
11	1.62	18.80	77.49
12	2.51	17.64	

出所: IEA

3.2.5 ココナ

表 143 ココナ: 1990年の生産実績

州別	作付面積 / 1000ha	収穫面積 / 1000ha	生産量 / 1000t	単収 / t/ha
バ イ ア	48.6	48.6	188.5	3.882
セ ア ラ	25.4	25.4	133.9	3.783
パ ラ ナ	10.4	10.4	77.1	2.306
セルレノ	43.1	43.1	86.5	2.007
アラゴアス	15.8	15.8	67.1	4.238
パラナグア	26.9	26.9	54.5	2.027
ノルマニ	12.7	11.7	38.5	3.271
その他	14.2	14.1	43.2	2.064
全国計	207.1	206.0	709.3	3.443

出所: IBGE

表 144 ココナ: 1991年の生産状況(91年7月調査)

州別	作付面積 / 1000ha	収穫面積 / 1000ha	生産量 / 1000t	単収 / t/ha
バ イ ア	49.4	49.4	190.6	3.859
セ ア ラ	38.2	38.2	149.6	3.920
パ ラ ナ	12.2	12.2	115.3	2.418
パラナグア	35.0	35.0	108.3	3.094
セルレノ	43.0	43.0	83.6	1.943
アラゴアス	15.2	15.2	63.8	4.200
ノルマニ	11.4	11.4	36.0	2.156
その他	14.5	14.5	44.8	2.090
全国計	218.9	218.9	772.0	3.619

出所: IBGE

表 14.5

コウヤロ: 過去5年間の生産推移

州別	1987	1988	1989	1990	1991
ハ イ ア	112.1	120.0	122.6	188.5	190.6
セ ア ア	108.2	134.2	129.9	133.9	149.6
ハ ア -	38.5	49.5	65.6	97.1	115.3
特ダテアトア	83.9	97.2	18.3	54.5	108.3
セ ア ア	94.7	91.7	87.1	86.5	83.6
その他	165.8	205.3	197.5	148.8	134.4
全国計	603.2	699.9	681.0	709.3	792.0
収穫面積 (1,000ha)	183.6	198.1	198.1	204.0	218.9

出所: 180E

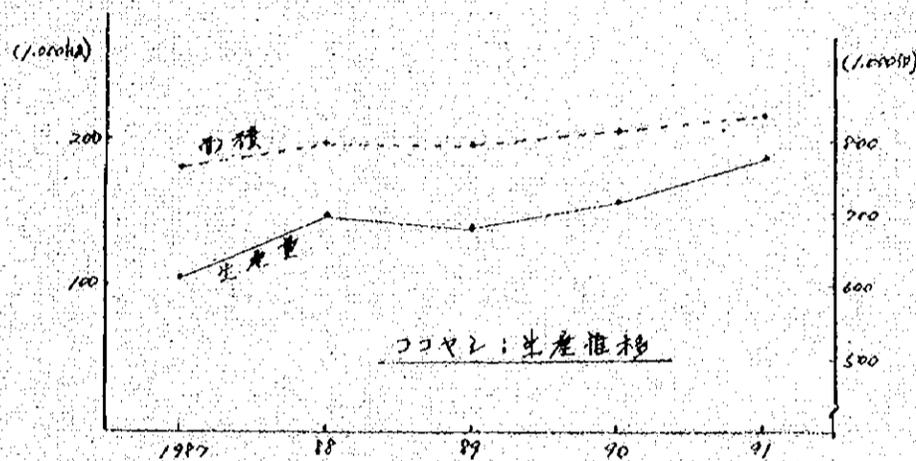


表 14.6

コウヤロ: 主要生産地の反収

州別	1987	1988	1989	1990	1991
ハ イ ア	2.823	3.000	3.544	3.882	3.859
セ ア ア	4.471	4.255	4.028	3.783	3.720
ハ ア -	5.923	6.818	7.122	9.306	9.418
特ダテアトア	3.228	3.632	2.647	2.027	2.094
セ ア ア	2.075	2.022	2.039	2.007	1.943
全国平均	3.284	3.533	3.439	3.443	3.617

出所: 189E

3.3 工業原料作物

3.3.1 砂糖キビ

1) 生産

表 147 砂糖キビ: 1990年の生産実績

州別	作付面積 1000ha	収穫面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
サン・パウロ	1812.0	1812.0	137,835.0	76,067
アラゴアス	558.6	558.6	26,151.0	46,819
パルナンプーコ	467.3	467.3	22,817.7	48,831
ミナス・ジェライス	297.6	298.1	17,533.4	58,824
パラナ	159.4	159.4	11,736.4	33,221
パラíba	159.0	155.9	8,254.8	52,936
ゴヤス	106.8	98.0	6,876.3	70,407
マト・グロソ	205.0	204.8	5,574.7	27,220
リオ・グランド・ド・ノル	67.9	67.4	4,193.3	62,254
バイア	79.7	79.7	3,435.4	43,082
マト・グロソ	51.3	50.7	3,036.7	59,725
セアラ	63.1	63.1	2,723.9	43,171
リオ・グランド・ド・ノル	56.9	56.9	2,491.0	43,793
セルジペ	38.1	38.1	2,182.2	57,268
マラニオン	37.4	37.4	2,042.0	54,636
ピオシー	19.3	19.3	1,562.5	80,849
エスピリト・サン	43.1	42.2	1,501.0	35,521
カタン	16.4	16.4	779.0	57,740
その他	49.4	45.6	1,658.3	36,366
全国計	4,290.3	4,290.9	262,604.6	61,487

出所: IBGE

表 148 砂糖キビ: 1991年の生産状況(91年9月調査)

州別	作付面積 1000ha	収穫面積 1000ha	生産量 1000t	単収 kg/ha
サン・パウロ	1852.4	1852.4	136,200.0	73,526
アラゴアス	489.9	489.9	23,132.1	47,219
パルナンプーコ	436.9	436.9	21,129.9	48,383
ミナス・ジェライス	283.9	276.3	17,588.3	63,647
パラナ	175.0	175.0	13,125.0	28,500
マト・グロソ	194.9	194.9	8,178.2	41,963
パラíba	155.6	155.6	8,178.0	52,543
ゴヤス	101.2	101.2	7,062.6	69,816
マト・グロソ	64.4	64.4	4,264.8	66,267
マト・グロソ	64.8	61.0	4,000.5	65,605
バイア	76.7	76.7	3,425.7	44,638
リオ・グランド・ド・ノル	62.7	62.7	3,129.2	49,893
セアラ	68.8	68.8	2,892.3	42,023
セルジペ	35.7	35.7	2,279.1	63,801
マラニオン	37.3	37.3	2,010.1	53,945
エスピリト・サン	33.5	33.5	1,523.1	45,456
ピオシー	19.2	19.2	1,490.3	77,686
その他	65.9	60.1	2,288.0	38,070
全国計	4,213.8	4,206.6	261,907.2	62,335

出所: IBGE

砂糖キビの生産は、87年の高産と比べ以後下降を続け、89年末より90年当初に141万トンの生産と燃料用アルコール不足の事態を招くが、その対策として採られた各種の措置、中でも砂糖キビ生産者協会の大中改訂と合し、90年後半に暴落した中東情勢の中で石油輸入の中断から予想され、国内燃料としてのアルコールの必要性が再認識されたこと、更に、国際砂糖市場の高値を維持することから砂糖キビの対外的な高値が実現し、89年を底辺とした生産量は、90年に回復して141万トンを回復し、91年もやや同等のレベル(262.6万トン)を維持している。これより、89年に達した268.7万トンの水準まで回復した。

砂糖キビの収穫期は、中央・南部地方に於いて5月～11月、北部東北地方では9月～2月の間に行われる。中央・南部地方では、7月から8月にかけて糖分の最高に達するが、この時期に刈り取ることで、この時期からの製糖工場やアルコール工場での処理能力の関係から5月以降12月平均的に刈り取るが行われる。12月の中旬に終了するのを期としている。

表 149

砂糖キビ：過去5年間の生産推移

1000t

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	130,421.9	135,399.4	131,705.2	137,835.0	136,200.0
パラゴアス	34,522.0	18,359.3	23,708.0	26,151.0	23,132.1
ペルナンブコ	22,786.5	22,557.3	24,508.1	22,817.7	21,139.9
ミナス・ジェライス	17,524.1	18,308.5	17,006.2	17,533.4	17,588.3
パラナ	11,911.4	12,210.0	12,337.5	11,736.4	13,125.0
リオ・デ・ジャネイロ	8,922.4	10,482.8	10,522.7	5,524.7	8,178.2
バイーア	9,514.8	8,798.2	8,642.3	8,254.8	8,178.0
その他	33,088.0	29,302.4	19,602.6	62,701.6	34,365.3
全国計	268,741.1	258,412.9	252,642.6	262,604.6	261,907.2

収穫面積 1000ha	4,314.1	4,117.4	4,075.8	4,270.9	4,201.6
出所: ICGE					

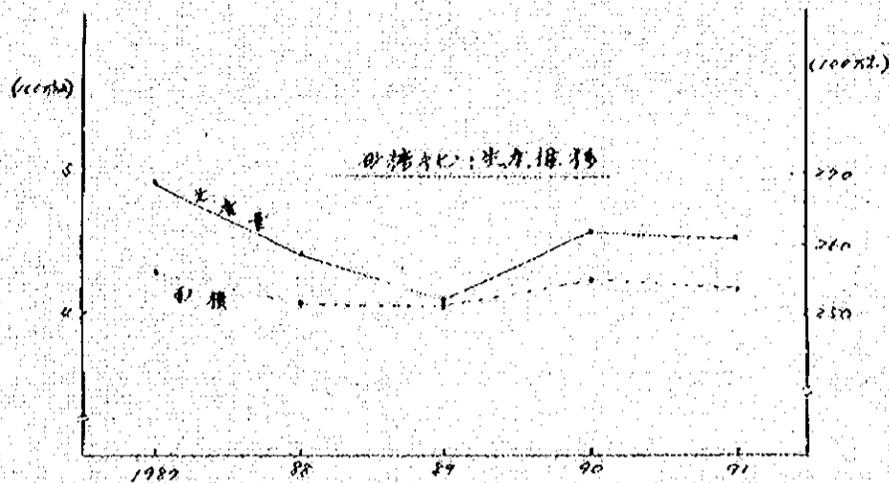
表 150

砂糖キビ：主要生産地の収取

kg/ha

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・パウロ	75,519	75,839	80,609	76,069	73,526
パラゴアス	50,184	43,439	47,204	41,819	47,219
ペルナンブコ	52,832	50,639	53,581	48,831	48,383
ミナス・ジェライス	55,220	57,156	57,808	58,724	63,647
パラナ	74,260	74,000	75,000	73,621	75,000
リオ・デ・ジャネイロ	40,277	46,231	47,177	27,220	41,913
バイーア	58,624	54,834	54,467	52,936	52,543
全国平均	62,293	62,762	61,785	61,487	62,335

出所: ICGE



国内の砂糖生産分布は80年代を通じて変化は行かず、州別で圧倒的の山東省(全国栽培面積の44%、全国生産量の52%)を持つサンハロウ州を含む南東地方が、全国栽培面積の15%を占め、東北地方が34%でこれに続いて居る。州別ではサンハロウ州に続き、東北地方のチリョウ省、ハルビン省、コロン州、南東地方のミナス・ジョイス州及び南部地方に属するハロウ州が年間10百ト以上の生産を行う主要生産地帯である。

砂糖生産の反収については、全国平均の1haあたり62トの線は過去54年間変化は無く、ハロウ州とサンハロウ州が70ト以上の収量をもっとも高い水準である。主要生産地帯の中、チリョウ省、ハルビン省、及びハライハ等東北地方の各州において生産性が低いのは乾燥の影響によるものである。

ロ) 砂糖及びアルコール市場

砂糖及びアルコールの生産は、この両品目の砂糖において基礎食糧、アルコールにおいて国内燃料という極めて重要な性格を持つことから政府のコントロール下にあり、その生産、消費及び価格が設定される。管轄機関は商工省管下の砂糖、アルコール院(199)が長期にわたって担当して居るが、現コントロール政権による行政改革の中でこれを撤廃し、これに折衷された大統領府地域開発庁がその業務を統括している。

砂糖及びアルコールの生産は、従って同業者が設立する生産計画に基づいて行われ、全国の各工場毎に生産目標が設定される。州別では1991/92農年の生産計画は次の通りである。

地域別及州別	砂糖		アルコール 1,000 m ³
	50kg入	1,000俵	
北部・東北部地方			
ハロー		56.0	2.8
トカンタニス		-	-
マラニョン	610.0		30.5
ピトライ		-	-
セアラ	707.0		35.4
リオアラント・フルテ	1,918.0		95.9
パライバ	2,200.0		110.0
ペルナンブコ	24,000.0		1,200.0
アラゴアス	24,000.0		1,200.0
セルジッパ	2,051.0		102.6
バ イ ア	1,688.0		84.4
小 計	57,230.0		2,861.5
中央・南部地方			
ミナス・ジェライス	9,200.0		462.0
エスピリト・サント	626.0		31.3
リオデ・ジャネイロ	2,274.0		363.7
サン・パウロ	28,000.0		3,900.0
パラナ	5,100.0		255.0
サンタ・カタリーナ	580.0		29.0
リオアラント・スール			
マト・グロソ	720.0		36.0
マト・グロソ・ド・スール	500.0		25.0
ゴヤス	980.0		49.0
小 計	103,020.0		5,151.0
合 計	160,250.0		8,012.0

出所：SDR

上記計画は、91/92農年の砂糖キビ生産が前年比4%増加する見込みのもとに作成されたもので、アルコールについては前年比5.6%増の12.4百万m³、砂糖は前年を8.6%上回る800千トンの生産を見込んでいる。砂糖の輸出については前年と同様に東北地方を主体として行われ、中央・南部地方は地域内の供給バランスに余力が出来る場合又は東北地方の生産量が280千トンを割る場合のみ輸出出来るものとした。海外市場としては米国のフロンタルに割り当てられている240千トンよりも大きく極東諸国も700千トンを購入する予定である。

アルコールの国内供給については、今年生産計画12.4百万m³に前年より繰越し1.2百万m³及びメタールの輸入1.0百万m³を加えると総供給量は14.6百万m³となり13.5百万m³と見積られる需要量に十分応じ得る態勢にあり、当面アルコール不足は発生しない見通しである。

表 152 TIVJ 10 a 糖給バツヤ

年度	生産量	消費量	増減
1981	4,207	2,949	1,258
82	5,618	4,088	1,530
83	7,951	5,906	2,045
84	9,001	7,346	1,655
85	11,563	9,019	2,544
86	9,983	11,598	(-) 1,615
87	12,340	11,759	581
88	11,523	12,398	(-) 875
89	11,809	13,426	(-) 1,617
90	11,900	12,460	(-) 560

出所: DNC / COPLAN

ウ) 糖

表 153 砂糖の輸入実況 (単位) 1,000 トン

年度	粗糖	精製糖	白砂糖	計
1981	1,564	916	222	2,702
82	1,222	1,090	398	2,710
83	1,575	783	146	2,504
84	1,545	1,212	303	3,060
85	1,048	1,192	308	2,548
86	874	1,154	304	2,332
87	908	1,093	193	2,194
88	892	781	92	1,765
89	433	504	116	1,053
90	825	577	101	1,503

(単位) 100 トン

1981	579	396	87	1,062
82	259	244	77	580
83	333	168	26	527
84	326	213	48	587
85	166	168	33	367
86	138	184	33	355
87	134	159	31	324
88	167	162	16	345
89	114	159	33	306
90	289	186	37	512

出所: ORCEX, DECEX

表 154 砂糖(粗糖)の輸入実況

輸出国	数量	合計 1000 トン
米 国	389,077	157,900
マロウ	165,957	88,326
イ	152,406	77,532
インド	116,852	18,660
和 国	22,430	6,273
2-2347	18,000	5,501
マ	12,740	4,483
その他	-	-
計	824,661	288,675

出所: DECEX

表 155 精製糖の輸出市場

輸出先国	重量 万	金額 1000円
イギリス	134,951	29,033
タイランド	114,809	20,776
メキシコ	135,596	10,171
アメリカ	32,399	12,119
ジャバネー	27,000	8,939
ソマリア	22,800	8,298
米 国	34,271	2,473
その他	73,766	24,668
計	576,592	186,497

出所: DECER

表 156 絞製糖の輸出市場

輸出先国	重量 万	金額 1000円
アメリカ	26,489	29,094
ソマリア	12,800	4,698
タイランド	6,000	1,645
米 国	5,789	1,257
その他	17	7
計	101,095	56,701

出所: DECER

⇒ 生産コスト

サンパウル州農林研究所の報告によると、8月4日発表の1992年の生産コストの推移は

以下の通り。

表 157 砂糖キレ: 91/92農年生産コスト下見(A)

サンパウル州カンピナス地区機械耕作 1ヘクタール 95%収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率(%)
A. 直接コスト			
a) 労 賃	46,601.03	490.54	6.84
b) 肥料石灰	113,788.00	1,197.77	16.76
c) 農 薬	25,225.02	370.79	5.71
d) 機械維持費	196,785.14	2,071.42	28.88
e) 収穫機費	35,205.50	370.58	5.17
f) 苗 代	112,309.33	1,182.20	16.48
g) 小 計	529,914.03	5,683.31	29.25
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	76,572.89	806.79	11.24
b) 金融費用	64,789.68	682.00	9.51
c) 小 計	141,362.57	1,488.79	20.75
全 計	671,276.60	7,171.60	100.00

92年9月1haあたり75%収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率(%)
A. 直接コスト			
a) 労 賃	11,149.19	148.66	4.83
b) 肥料石灰	46,800.00	624.00	20.26
c) 農 薬	13,902.98	186.17	6.04
d) 機械維持費	78,265.66	1,049.94	34.09
e) 収穫機費	26,258.80	350.86	11.97
f) 小 計	176,912.53	2,358.83	76.59

B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	32,845.12	437.93	14.22
b) 金融費用	21,229.50	283.06	9.19
小計	54,074.62	720.99	23.41
合計	230,987.16	3,079.83	100.00

※3年目 1haあたり 62t収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	19,388.61	312.92	8.96
b) 肥料石灰	46,800.00	754.84	21.15
c) 農薬	13,962.98	225.21	6.31
d) 機械維持費	69,745.57	1,124.93	31.51
e) 収穫後費	21,814.65	351.85	7.86
小計	171,711.81	2,769.65	77.59
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	29,001.29	467.76	13.10
b) 金融費用	20,605.42	332.35	9.31
小計	49,606.71	800.11	22.41
合計	221,918.52	3,569.65	100.00

※4年目 1haあたり 52t収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	19,288.61	372.86	8.92
b) 肥料石灰	46,800.00	900.00	21.52
c) 農薬	13,962.98	268.52	6.42
d) 機械維持費	69,745.57	1,341.26	32.08
e) 収穫後費	18,339.75	352.69	8.43
小計	168,236.91	3,235.33	77.38
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	29,001.29	557.72	13.34
b) 金融費用	20,188.42	388.24	9.24
小計	49,189.72	945.96	22.58
合計	217,426.63	4,181.28	100.00

出所: IEA

表 158 砂糖キビ: 9/92 農年生産コスト手続 (8)

※1haあたり 11.5t収穫の場合

項目	1haあたり CR	1tあたり CR	構成比率 (%)
A. 直接コスト			
a) 労賃	36,522.92	365.23	5.24
b) 肥料石灰	113,330.00	1,133.30	16.76
c) 農薬	19,026.00	190.25	2.73
d) 機械維持費	178,333.78	1,883.24	25.58
e) 収穫後費	41,198.25	411.98	5.91
f) 田舎	169,833.62	1,698.34	24.26
小計	558,253.57	5,582.54	80.68
B. 間接コスト			
a) 機械減価償却費	71,851.71	718.52	10.31
b) 金融費用	66,990.43	669.90	9.61
小計	138,842.14	1,388.42	19.92
合計	697,095.72	6,970.96	100.00

平成27年度 1ha当り 78t収穫の場合

項 目	1ha当り CR	1t当り CR	積込比率 (%)
A 直接コスト			
a) 労 賃	15,348.37	196.77	5.84
b) 肥料石灰	64,807.60	820.89	24.65
c) 農 薬	19,035.00	241.04	7.24
d) 機械維持費	26,535.15	337.22	9.71
e) 収穫預負費	30,503.59	391.07	11.60
小 計	206,229.71	2,643.97	78.45
B 間接コスト			
a) 機械減価償却費	51,901.21	661.99	19.14
b) 金融費用	24,247.57	317.28	9.41
小 計	56,648.78	716.27	21.55
合 計	262,878.49	3,360.24	100.00

平成30年度 1ha当り 65t収穫の場合

項 目	1ha当り CR	1t当り CR	積込比率 (%)
A 直接コスト			
a) 労 賃	14,015.14	215.62	5.24
b) 肥料石灰	64,807.60	997.04	26.55
c) 農 薬	19,035.00	292.85	7.80
d) 機械維持費	69,099.95	1,065.08	28.30
e) 収穫預負費	25,348.05	389.77	10.38
小 計	192,305.74	2,985.55	78.77
B 間接コスト			
a) 機械維持費	28,246.73	432.76	11.28
b) 金融費用	23,026.69	354.03	9.45
小 計	51,273.42	797.29	21.23
合 計	244,129.16	3,785.83	100.00

平成40年度 1ha当り 60t収穫の場合

項 目	1ha当り CR	1t当り CR	積込比率 (%)
A 直接コスト			
a) 労 賃	14,015.14	233.59	5.29
b) 肥料石灰	64,807.60	1,080.13	26.28
c) 農 薬	19,035.00	317.25	7.82
d) 機械維持費	69,099.95	1,151.67	28.56
e) 収穫預負費	23,414.73	390.25	9.68
小 計	190,372.42	3,172.87	78.68
B 間接コスト			
a) 機械減価償却費	28,246.73	470.78	11.88
b) 金融費用	23,044.69	384.07	9.44
小 計	51,291.42	854.85	21.32
合 計	241,963.84	4,027.73	100.00

出所: IED

3.3.2 マンゴカ

表 159 マンゴカ：1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
バ イ ア	325.6	325.6	4,152.3	12,753
ハ ヲ ー	233.5	230.5	2,852.5	12,395
ヒ ヲ シ イ	171.8	161.5	2,296.6	13,296
ハ ヲ ナ	101.7	101.7	2,184.6	21,448
マ ラ = コ ン	220.9	227.0	1,782.2	7,853
休ガキイサシ	121.5	121.5	1,738.1	14,307
サ = シ ヲ ナ	67.6	67.6	1,162.2	17,194
ハルナシ	120.4	119.6	1,131.1	9,455
其 他	580.2	573.4	6,980.1	12,173
全 国 計	1,953.4	1,933.6	24,284.7	12,559

出所：180E

表 160 マンゴカ：1991年の生産状況(91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
バ イ ア	329.9	329.9	4,170.7	12,644
ハ ヲ ー	233.9	233.8	3,005.1	12,853
ハ ヲ ナ	110.0	110.0	2,310.0	21,000
ヒ ヲ シ イ	159.7	159.7	1,968.9	12,325
マ ラ = コ ン	237.5	237.5	1,962.6	8,264
休ガキイサシ	111.9	111.9	1,500.4	13,411
セ ヲ ナ	137.6	137.6	1,183.1	8,597
サ = シ ヲ ナ	63.5	63.5	1,104.2	17,381
其 他	577.3	575.3	6,927.0	11,173
全 国 計	1,961.7	1,959.2	24,632.2	12,572

出所：189E

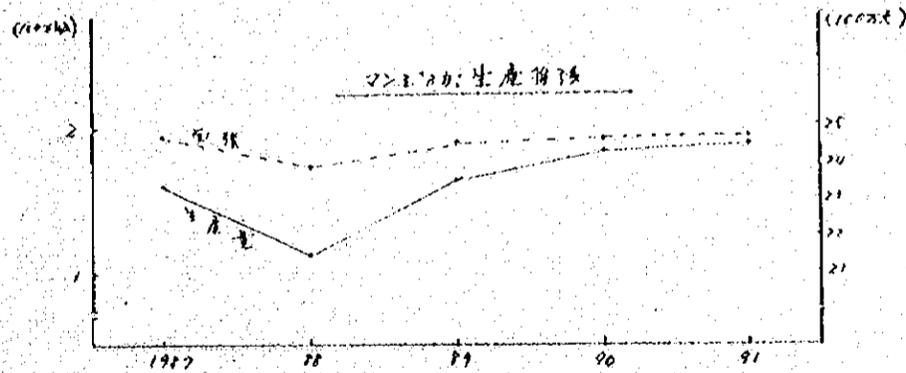


表 161 マンゴカ：過去5年間の生産推移

州別	1987	1988	1989	1990	1991
バ イ ア	3,920.3	3,429.0	4,022.7	4,152.3	4,170.7
ハ ヲ ー	2,025.9	1,908.9	2,609.6	2,852.5	3,005.1
ハ ヲ ナ	1,854.0	1,850.0	1,743.0	2,184.6	2,310.0
ヒ ヲ シ イ	1,981.5	1,897.0	1,998.6	2,296.6	1,968.9
マ ラ = コ ン	1,766.3	1,619.4	1,855.6	1,782.2	1,962.6
其 他					
全 国 計	23,464.5	21,672.8	23,668.5	24,284.7	24,632.2
収穫面積 1,000ha	1,936.0	1,752.0	1,890.9	1,933.6	1,959.2

出所：186E

表 162 主要生産他力の反収 (kg/ha)

州別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	12,544	12,700	12,571	12,753	12,644
青森県	12,406	12,116	13,174	12,395	12,553
岩手県	21,909	21,314	21,000	21,448	21,000
秋田県	11,296	11,642	14,233	13,796	12,375
山形県	8,108	7,911	7,984	7,853	8,264
全国平均	12,120	12,371	12,584	12,559	12,572

出所: 189E

表 163 主要生産他力(工業用材料)生産者受取価格 (円/t)

月別	1989	1990	1991
1	81.71	470.47	3,906.60
2	92.46	614.27	4,595.24
3	92.86	977.14	5,859.33
4	96.16	1,050.40	6,123.49
5	103.35	1,325.56	6,708.61
6	115.37	1,427.88	6,198.65
7	114.11	1,495.76	7,508.71
8	121.87	1,548.58	7,385.14
9	132.75	1,816.08	11,018.16
10	173.87	1,945.01	13,593.18
11	181.47	2,608.04	18,003.00
12	222.79	2,980.95	

出所: 189A

3.3.3 煙草業

表 164 煙草業: 1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
北海道	118.0	115.4	204.6	1,772
青森県	84.2	84.2	152.4	1,809
岩手県	22.5	22.5	40.3	1,792
山形県	26.6	26.6	31.6	1,189
秋田県	19.2	17.0	10.5	623
その他	6.7	6.7	5.0	746
全国計	275.2	272.4	444.4	1,632

出所: 189E

表 165 煙草業: 1991年の生産状況(71年7月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
北海道	123.2	123.2	186.6	1,515
青森県	89.7	89.1	143.2	1,607
岩手県	23.0	22.0	42.2	1,835
山形県	30.5	30.5	26.0	852
秋田県	10.7	10.7	10.2	654
その他	7.2	7.2	5.6	778
全国計	289.3	288.7	413.8	1,433

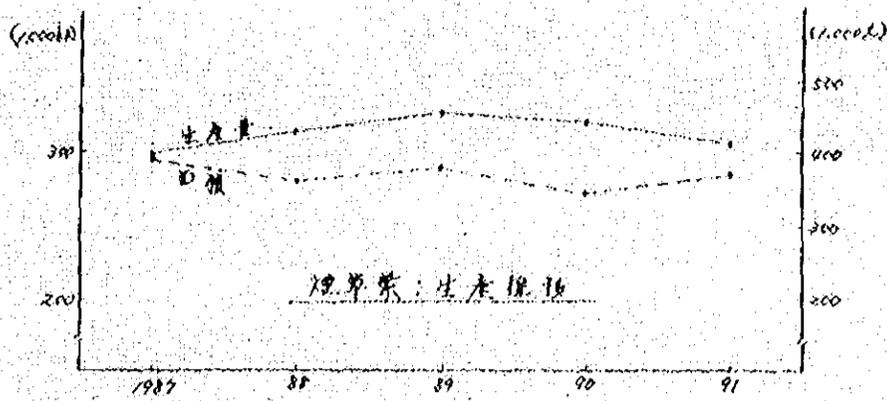


表 166 燃草量: 最大5ヶ年間の生産推移 (1,000t)

州別	1987	1988	1989	1990	1991
秋田県	147.5	183.3	201.2	204.6	186.6
山形県	156.7	149.1	148.3	152.4	143.2
北海道	40.8	44.0	46.6	40.3	42.2
アラスカ	29.0	26.6	45.6	31.6	26.0
ハワイ	14.8	17.4	15.6	10.5	10.2
その他	8.7	10.6	0.7	5.0	5.6
全国計	397.5	431.0	456.0	444.4	413.8

収穫面積 / 100ha	297.7	280.5	289.1	272.4	288.7
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

表 167 燃草量: 主要生産地の収収 (kg/ha)

州別	1987	1988	1989	1990	1991
秋田県	1.390	1.766	1.772	1.772	1.515
山形県	1.594	1.722	1.600	1.809	1.607
北海道	1.758	1.973	1.850	1.792	1.835
アラスカ	801	791	1,200	1,189	852
ハワイ	714	739	784	623	654
全国平均	1.335	1.337	1.543	1.632	1.433

出所: 180E

3.3.4 サイザル

表 168 サイザル: 1990年の生産実績

州別	作付面積 / 100ha	収穫面積 / 100ha	生産量 / 1,000t	単収 / kg/ha
ハワイ	170.1	170.1	119.1	700
北海道	69.0	69.0	57.3	830
秋田県	30.0	8.8	8.0	912
アラスカ	1.5	1.0	0.5	500
その他	10.2	0.3	0.2	667
全国計	270.8	249.2	185.1	743

出所: 180E

表 169 サイザル: 1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 / 100ha	収穫面積 / 100ha	生産量 / 1,000t	単収 / kg/ha
ハワイ	170.0	170.0	119.0	700
北海道	74.5	74.5	57.9	777
秋田県	7.2	2.2	6.6	917
アラスカ	1.3	1.3	1.0	774
その他	0.2	0.2	0.2	1,000
全国計	253.2	253.2	184.7	729

出所:

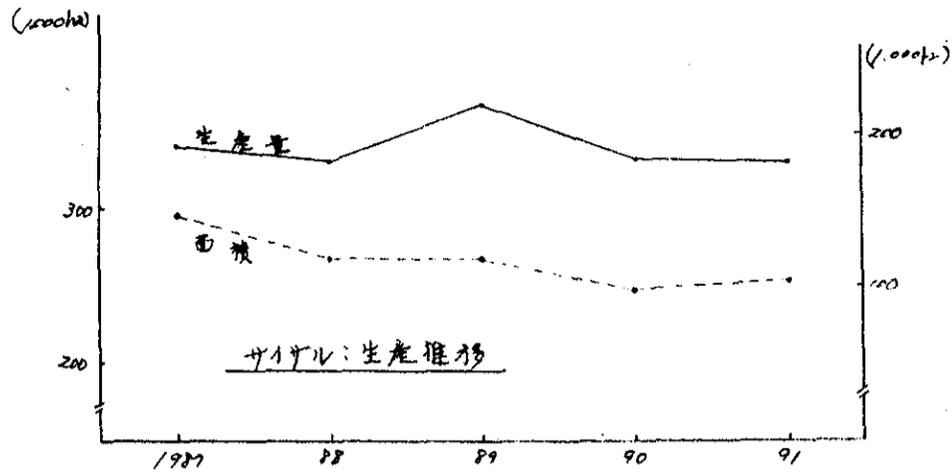


表 170

サヤシル: 過去5ヶ年間の生産推移

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
ハ イ ト	108.0	112.8	150.0	119.1	119.0
ハ ヲ イ ハ	64.2	67.5	67.2	57.3	57.9
休ガラシト:ルチ	17.6	8.1	7.6	8.0	6.6
ヘルナゴフコ	1.3	1.0	1.1	0.5	1.0
その他	0.2	0.1	0.1	0.2	0.2
全国計	191.3	185.4	221.0	185.1	184.7

収穫面積 /,000ha	1987	1988	1989	1990	1991
収穫面積 /,000ha	296.2	270.2	270.2	249.2	253.2

出所: 186E

表 171

サヤシル: 主要生産地の収収

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
ハ イ ト	600	620	800	700	700
ハ ヲ イ ハ	810	815	890	830	777
休ガラシト:ルチ	504	1,137	872	912	917
ヘルナゴフコ	762	812	850	500	774
全国平均	646	685	818	743	727

出所: 186E

3.3.5 ヴォート及びマリン

表 172

ヴォート: 1990年の生産実績

州 別	作付面積 /,000ha	収穫面積 /,000ha	生産量 /,000t	単収 kg/ha
アマランス	2.4	2.4	2.8	1,200
ハ ヲ -	0.9	0.7	0.8	1,246
全国計	3.3	3.0	3.6	1,210

出所: 186E

表 173

ヴォート: 1991年の生産状況(91年9月調査)

州 別	作付面積 /,000ha	収穫面積 /,000ha	生産量 /,000t	単収 kg/ha
ハ ヲ -	1.9	1.3	1.7	1,258
アマランス	1.3	1.3	1.6	1,200
全国計	3.2	2.6	3.3	1,230

出所: 186E

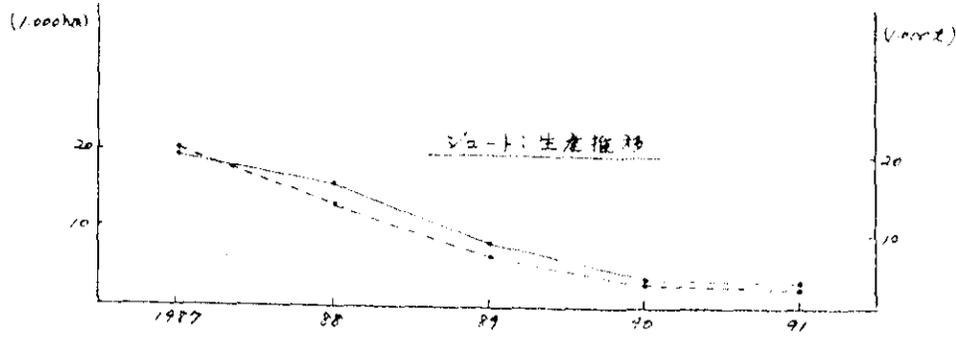


表 174 注:過去5年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	7.6	5.2	2.4	0.8	1.7
アムール	11.9	10.9	5.9	2.8	1.6
全国計	19.5	16.1	8.3	3.6	3.2
収穫面積 1,000ha	20.6	13.5	7.1	3.0	2.6

出所: 189E

表 175 注:主要生産地への反収 49/ha

州別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	1,114	1,158	1,018	1,246	1,258
アムール	866	1,200	1,200	1,200	1,200
全国平均	947	1,186	1,126	1,210	1,230

出所: 189E

表 176 マルハ: 1990年の生産実績

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
北海道	15.7	13.2	9.2	699
アムール	3.0	2.9	5.2	1,800
マラエヨン	5.1	5.1	4.1	798
全国計	23.8	21.2	18.5	873

出所: 189E

表 177 マルハ: 1991年の生産状況(91年9月調査)

州別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
北海道	9.3	9.3	6.2	735
マラエヨン	3.7	3.7	2.9	796
アムール	1.4	1.4	2.5	1,800
全国計	14.4	14.4	12.3	864

出所: 189E

表 178 マルハ: 過去5年間の生産推移 1,000t

州別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	26.2	20.8	14.9	9.2	6.8
マラエヨン	2.4	2.5	4.1	4.1	2.9
アムール	17.6	29.6	22.8	5.2	2.5
全国計	46.1	52.9	31.7	18.5	12.3
収穫面積 1,000ha	44.5	47.2	32.2	21.2	14.4

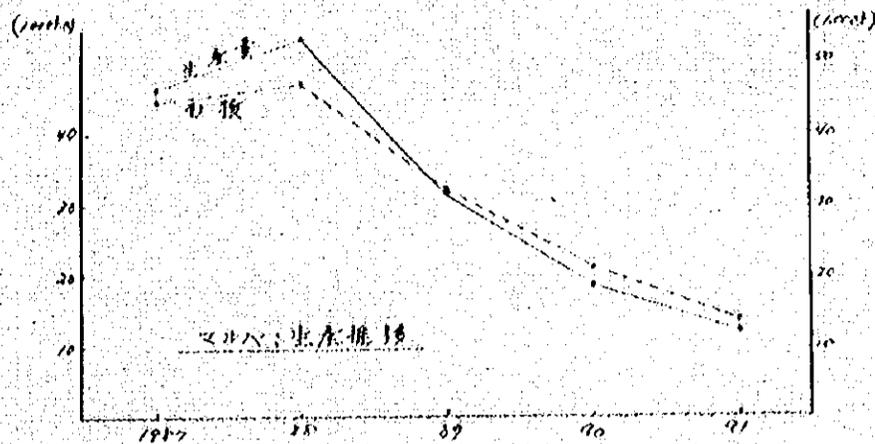


表 179 主要生産地の反収

州別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	275	257	252	235	235
東北	212	296	278	298	296
関東	1,513	1,283	1,500	1,200	1,500
全国平均	1,137	1,121	784	873	854

出所: 189E

3.2.6 7.1

表 180 1990年の生産実績

州別	作付面積 (100ha)	収穫面積 (100ha)	生産量 (1000t)	単収 (kg/ha)
北海道	2.1	2.1	10.2	1,426
計	2.1	2.1	10.2	1,426

出所: 189E

表 181 1991年の生産状況 (71年7月現在)

州別	作付面積 (100ha)	収穫面積 (100ha)	生産量 (1000t)	単収 (kg/ha)
北海道	5.7	5.7	2.4	1,310
計	5.7	5.7	2.4	1,310

出所: 189E

表 182 過去5年間の生産推移

州別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	13.5	19.1	9.2	10.2	2.4
収穫面積 (100ha)	2.1	8.2	8.0	2.1	5.7

表 183 主要生産地の反収

州別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	2,183	2,325	1,145	1,426	1,310

2. 4 咖啡作物

3. 4. 1 コーヒー

1) 生産

表 184 コーヒー：1990年の生産実績

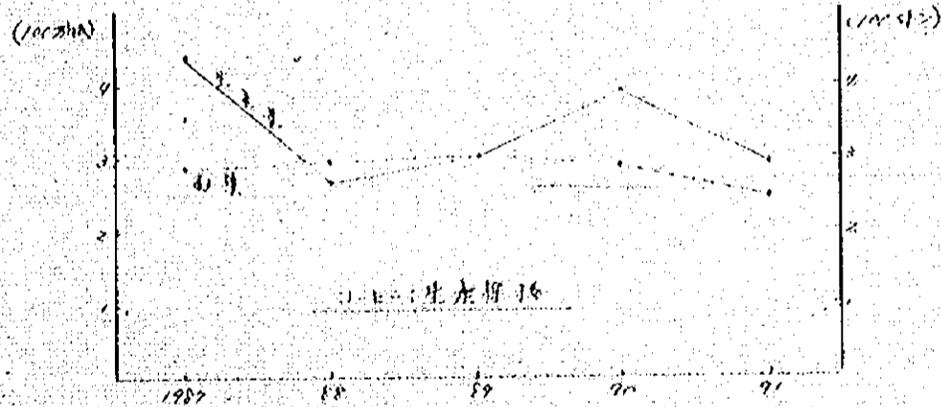
州別	作付面積 (hectar)	収穫面積 (hectar)	生産量 (kg)	単収 (kg/ha)
ミナソ、エライス	763.3	763.2	1,040.8	1,228
サンパロ	502.0	502.0	647.6	1,146
エスピリトサント	502.7	502.7	436.3	1,020
パソ	422.7	422.4	313.4	735
ロサ	148.6	148.6	124.3	1,173
その他	292.9	292.9	311.9	1,065
全国計	2,909.6	2,905.8	2,926.3	1,067

単位：kg

表 185 コーヒー：1991年の生産状況(1991年9月時点)

州別	作付面積 (hectar)	収穫面積 (hectar)	生産量 (kg)	単収 (kg/ha)
ミナソ、エライス	756.1	756.5	1,166.7	1,226
サンパロ	494.5	494.5	540.0	1,093
エスピリトサント	508.0	508.8	523.6	1,029
パソ	320.0	320.0	220.0	700
ロサ	135.7	135.7	149.3	1,100
その他	281.4	281.4	284.9	1,012
全国計	2,746.5	2,741.9	2,994.5	1,092

単位：kg



80年代末に於けるコーヒーの全国植付株数は3043.4億株と推定されている。州別ではミナソ、エライス州が17億株が40%を占める最も大きく、サンパロ州が23億株が17%、エスピリトサント州もほぼ同等の22億株が17%、パソ州5.2億株12%の分布状況にある。一般にコーヒー樹1000本が精選コーヒー10袋を得るから現在の植付株数は年間40万袋を生産出来る規模がある。

1991年のデータによると、全国のコピー栽培面積は1989年の推定値3,026,516ヘクタールより、以後増少傾向にあり、91年には3,226,914ヘクタールに栽培面積へと減少している。これは、減少する年況の中でコーヒー栽培と牧草又は他の有用作物に切り換える農家の増加が原因と推定される。農務省関係当局の情報によると年間150〜200万本の移植又は、移植の状況にあるとされており、生産態勢にあるコーヒー樹数は全体の86%に相当すると推定される。また、推定される。

ブラジルのコーヒーは基本的にアラビカ種が多く、全生産量の86%はアラビカ種によるものと見られる。15%がロブスタ種で、アラビカ種は、サンパウロ州、ミナスジェリス州、ゴイアス州に多く、ロブスタ種は、エスピリトサント州及びゴイアス州に多く栽培されている。

表 186 コーヒー：過去5年間の生産実績 (t/ha)

州別	1987	1988	1989	1990	1991
ミナスジェリス	1,610.7	1,029.4	1,200.5	1,040.8	1,111.7
サンパウロ	252.7	566.8	422.5	649.6	500.0
エスピリトサント	445.0	519.2	526.7	436.3	523.6
パラナ	220.7	228.0	456.0	312.4	350.0
その他	381.1	395.3	402.0	486.1	424.2
全国計	4,405.4	2,927.7	3,059.7	3,926.2	2,979.5

収獲面積 (t/ha) 1991年

1987	2,825.6	2,925.2	3,026.5	2,905.8	2,741.7
------	---------	---------	---------	---------	---------

表 187 コーヒー：主要生産地の収取 (kg/ha)

州別	1987	1988	1989	1990	1991
ミナスジェリス	1,875	1,144	1,240	1,226	1,226
サンパウロ	1,235	814	720	1,146	1,022
エスピリトサント	1,014	1,081	1,032	1,030	1,029
パラナ	1,262	465	902	735	900
全国平均	1,532	920	1,011	1,007	1,022

出所：1992

ウ) 国際市場とブラジルの輸出

USDA (米国農務省) によると、91/92 農年における世界のコーヒー生産は、99.9 百万担 (60kg入) から 90/91 農年の 99.7 百万担とやや上廻ると推定されている。この中、ブラジルの生産量については、28 百万担と予測されているが、この量はブラジル側も認められており、過去最大規模の USDA の過大又は最少評価はなく、妥当とされている。世界の生産例として

では、ブラジル(280万トン)、コロンビア(14.5万トン)、インドネシア(6.9万トン)、スリランカ(4.5万トン)、象牙海岸(1.5万トン)等が主要生産国であり、また特別の生産国中はブラジル、コロンビアを含む南米大陸が70%を占め、アフリカが17%を占める見られている。

国際コーヒー市場は89年7月に国際コーヒー協会の中で生産国の輸出割当を基礎とした経済条項が破棄されて以来、価格コントロールが失われ、生産国側の輸出拡大による供給量の増加から価格は下落し、以後今日に至るまで価格の低迷が続いている。今のところ価格回復の見込みは少ない。

年 度	コロンビア(万トン)	ブラジル(万トン)	アフリカ諸国(万トン)	その他(万トン)
1986年	220.04	192.74	231.19	147.83
87	123.46	112.29	166.37	102.34
88	-	105.10	121.84	95.11
89	107.14	106.96	98.76	75.20
90 1月	96.01	88.26	82.94	52.38
7	92.45	86.48	78.94	51.47
8	103.30	94.42	90.25	55.10
9	102.21	94.92	92.20	57.09
10	97.20	91.41	85.78	58.65
11	92.38	84.84	77.46	56.79
12	97.06	89.89	80.17	57.04
91 1	91.55	86.22	76.54	53.92
2	94.23	89.57	79.79	52.46
3	97.26	93.72	83.83	52.13
4	97.27	91.73	81.58	52.38
5	91.51	87.50	76.56	48.22
6	90.18	86.50	72.44	47.10
7	88.02	82.93	67.24	46.49
8	88.09	81.63	68.15	46.57

出所: OIC

生産国の輸出割当を復活させ価格コントロールのシステムを再構築する目的のOIC(国際コーヒー機構)会議が2年振りに91年9月に開催され、アフリカ諸国を始めとする多くの生産国が会議の成功を期待してはいたが、生産国を代表するブラジル及びコロンビア、消費国を代表する米国の利害が一致せず会議は具体的結論を見出せぬまま、92年1月に繰返された。会議の成否を左右する上、会議の間中、ブラジルとしては新しい協定が過去のブラジルに対する割当制であること、世界輸出の30%の枠を維持される限り協定の復活には反対する態度で臨んでおり、コロンビアは従来の割当制を高く得るシステムを再構築し、コロンビアが産出する

高品質コーヒーに対する需要の増大と生産、消費制を設ける米国の友好関係にあるコ
 ーヒー生産国との政治的約束は、貿易の自由化の生産国と対価の価格を取引を可能とする方
 を希望し、低価格の輸入に利用国市場を更に拡大したい意向を示した。従って今後の会議にか
 いてコンセンサスを求めるには、この両方の意見の調整が必要となる。

89年7月、コーヒー協定の経済条項が撤廃された。ブラジルは、輸出増強の
 ため、この国際価格下落の端緒となつた。ブラジルは、89年の18,300億リヤ
 16.8億リヤへと輸出を減少させた。この余白は、協定の復活により、より多くの輸出割当を要求す
 るコロンビアに付与される。

コロンビアでは、コーヒー生産者を保護する政策として、コーヒー基金を設け、国内生産コストをバ
 スとする国内価格と世界の市場における国際価格との差額を基金が負担する制度が設けられ
 ているが、低迷が続く国際相場の中でこの基金も枯乏となり、緊急に国際協定の復活を
 必要としている国内事情がある。ブラジルが協定復活に積極的姿勢を示すことが、
 他の生産国が無制限に輸出を増加した中で、若手と国内事情もあって国内に多くを保
 留してブラジルは、他の生産国に輸出余力が乏しく、財源十分の貯蔵があり、供給不足に伴う地
 格の上昇する場合、これを利用出来る態勢にある。また、輸出割当をとり、下刊の若
 手があることや90年3月に発足したコロンビア政府の貿易政策が自由解放の線に向かっていること
 から国際協定の輸出割当について国内的にも緩和を行使する方向にあることは、
 向強く影響する。ブラジルとしては、国際間における価格コントロールの削減によって一時的に
 一時的にはあつても、長期的にみる場合、高品質のコーヒーを生産する生産国は、
 高品質のコーヒーは、国際市場で脱落し、世界の市場は均衡に向かうと考えられる。

表 119 コーヒー(豆)の輸出推移

年 度	数量 1,000t	金額 100万t	単価 100/t
1981	284	2,486	3,121
82	525	1,517	1,239
83	888	1,858	2,092
84	940	2,095	2,229
85	1,022	2,564	2,484
86	1,024	2,367	2,291
87	928	1,959	1,953
88	514	1,170	2,276
89	653	1,610	2,465
90	553	1,106	1,957

出所: CACEX, DFCEX

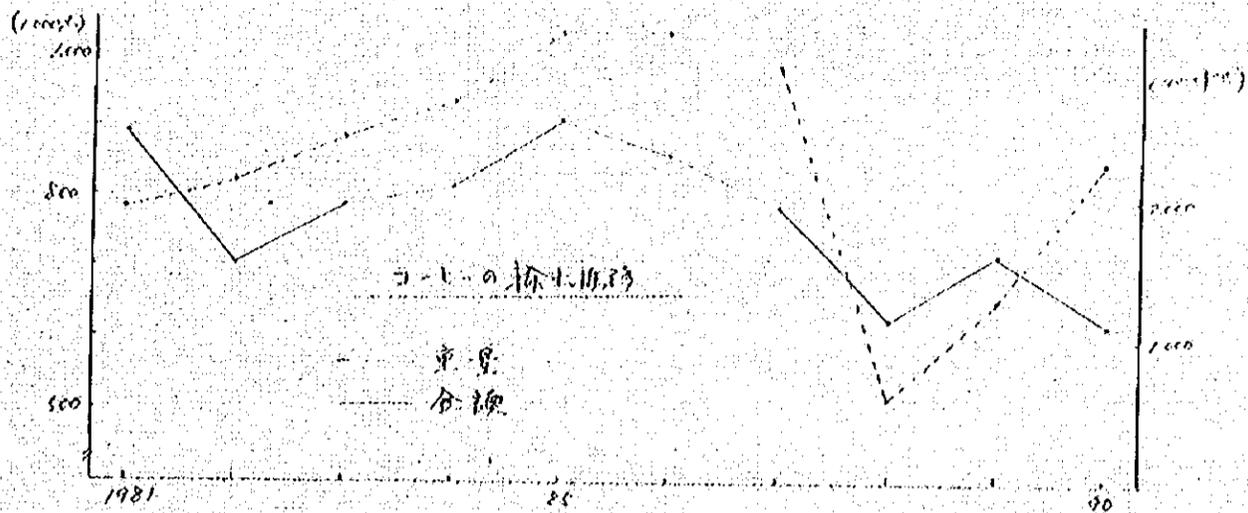


表 190 J-E: コーヒー(豆)の物価推移 (1970)

物 品 名	単 位	重 量 (kg)	単 価 (1000円)
米	kg	245.622	299.901
小麦	kg	78.412	107.383
大豆	kg	69.646	98.329
豆	kg	54.031	74.639
小麦	kg	40.026	55.492
小麦	kg	39.458	52.372
小麦	kg	37.543	47.681
小麦	kg	36.774	39.716
小麦	kg	22.934	29.001
小麦	kg	27.963	28.513
小麦	kg	17.364	27.331
計		852.891	1105.778

出所: DECEX

表 191 J-E: コーヒー(豆)の物価推移

年 度	重 量 (1000kg)	全 額 (1000円)	単 価 (1000円)
1981	44	238	5.409
82	45	251	5.578
83	43	247	5.698
84	45	287	6.338
85	40	253	6.325
86	46	297	6.457
87	36	210	5.833
88	23	124	5.367
89	30	173	5.767
90	51	147	2.878

出所: CECEX, DECEX

表 192 コーヒー生産者受取価格の推移 (1970年)

相対単位	単位	金額	金額 (100%)
米	圓	17,424	41.088
ソ	株	15,255	37.592
英	圓	4,872	18.916
カ	円	2,744	7.825
日	円	1,887	6.407
ハ	円	6,523	15.939
オ	円	1,860	4.392
イ	円	843	2.591
ル	円	1,270	5.458
東	株	248	2.576
生	円	2,237	10.532
計		51,183	100.000

出所: DECAF

ハ) 国内市場

国際協定の復活に躊躇するブラジル政府の態度は、何の理由もなく、長期に亘るブラジルに利益をもたらすとの考え方にほとつくものがある。現実の問題としては、すでに2年におよぶ低迷する国際市場の中でブラジルのコーヒー生産者は、最悪の状態に陥っており、91年9月の国際コーヒー会議に、かなりの期待も込めて、協定復活の延期にと、更に下降する価格の前に数ヶ月、若しくは数年間苦境が継続している状況にある。

生産者受取価格を91年3月の価格をベースとした実質価格である。国際コーヒー協定の経済的負担の破棄直前の89年6、7月に1株60円 (CR100) であり、価格は協定破棄直後の8月には、CR40に落ちると、以後反動をみるべく、91年11月に100に回復してCR24の状態にある。

表 193 生産者受取価格 (CR/60kg) 株

月別	市場価格			1990年3月を100とした実質価格		
	1989	1990	1991	1989	1990	1991
1	79	1,092	10,347	81.423	47.571	40.982
2	79	2,248	14,079	72.808	57.060	46.039
3	82	3,207	18,529	72.603	44.898	47.362
4	106	4,046	16,530	89.682	50.855	46.283
5	134	4,721	16,287	100.129	48.625	42.435
6	139	4,233	17,213	82.177	44.744	41.311
7	122	4,331	17,992	86.409	40.537	38.143
8	129	5,776	18,968	40,561	47.887	34.901
9	171	5,940	28,033	38,567	44.074	37.553
10	210	5,964	29,998	33,887	38,709	37,798
11	226	6,263	34,847	36,426	34,633	34,847
12	499	7,229	...	37,372	37,711	...

出所: IEA

このような情勢下でコーヒー生産者の多くは年々減少し、自給不足は我が国管理の土地にのみあり、肥料や石灰の使用量が減少する中で多くのコーヒー樹が萎萎し、全く放棄された状態に置かれている。州政府の農業普及事務所はサンパウロ州内で約30%のコーヒー園がこの状態に置かれているが、91年の開花期には多くの生産地帯で長期乾燥の影響でコーヒーの収量は、92年度の生産量の30%以上の減産に陥ろうとの見通しを發表している。

サンパウロ州に次ぐブラジルの州にありとも生産の減少が予想されるが、例としてミナスジェリス州の場合、91年には11万トン以上の収穫を計ったが、次年度にはこれを約30%減少する生産に落ちるとの見通しがある。この減産予想は、コーヒーの持つ年置き増産・減産の特性を以てするものではなく、管理上の不足もひとつの理由であり、州内の主要生産地帯で輸出用高級コーヒー生産地でもある州都府府ミナス地帯でも大きな減産が見込まれている。

コーヒー価格の下落による生産者収益の低下は、各生産州(サンパウロ、ミナスジェリス、エスピリトサント、パラナ)の州政府にとっても重大な問題である。コーヒー販売量の低下に伴い州の重要な税源とされているICMS(商品流通サービス税)が半減するのみならず州財政に大きな支障を及ぼしているからである。

コーヒー価格の下落は又、この州の代表的輸出品であるのに貿易収支に大きな影響を及ぼすことはいうまでもないが、この経済上の問題に加え深刻な社会問題と関連する点も見逃すことの出来ない。

IEA(サンパウロ農務局、農業経済研究所)の作成調査によると、コーヒー園の必要とする労働力は1ヘクタール年間150日間、毎日1人と推定されているが、サンパウロ州の場合、現在保有する516千ヘクタールのコーヒー園が10%縮小する場合、直接雇用26千人が失業することになる。この計算を2,700千ヘクタールの全国コーヒー面積にあてはめると10%の面積減少は、135千人の失業を意味することになる。

苦境にあるコーヒー生産者対策としては、各州でそれぞれ措置が講じられている。サンパウロ州では、コーヒー生産者の持つ債務の返済期限の延長(92年11月20日まで)、150億クルゼイロの新規融資の提供等の措置が行なわれているが、根本的な救済策とするためには、2年据置き長期融資が必要とされている。すなわち最初の1年目は放棄されているコーヒー樹の再生のための投資にあてはげ、2年目にこれらの結果として3年目より通常の生産態勢に戻ることに伴い、収入が1年-2年の資金融資が必要となる。

シンパツ川農務局第 1 号 1991 年 10 月 10 日 算出 (C) の生産コストは、
 30 ไร่ 10 枚の生産の場合、コストは 45,420,-、20 ไร่の場合 32,325,-、30 ไร่の場合
 42,534,- と仮定し、10 月の生産費の割合は、20 ไร่の場合 32,325,- 比較の場合 10 枚
 場合は完全赤字、20 ไร่収穫と換算して、30 ไร่と収穫と仮定し、1 ไร่あたり 2,700 円程度の利
 益が出ると計算されている。

表 194 コーヒー生産コスト推定 (91/92 年度) (1)

1ha あたり 10 枚 (60kg) 収穫の場合

項目	1ha 当り CR	1畝当り CR	構成比率 %
直接コスト			
1) 労 賃	193,096.76	19,309.70	42.51
2) 肥料及石灰	105,195.60	10,519.56	23.16
3) 農 薬	-	-	-
4) 機械維持費	27,988.24	2,798.83	6.60
5) 収穫請負費	25,680.00	2,568.00	11.64
6) 土地の経費	21,464.00	2,146.40	4.73
小 計	425,344.90	42,534.49	93.65
間接コスト			
1) 機械減価償却費	9,717.66	971.77	2.14
2) 金融費用	12,140.52	1,214.05	4.21
小 計	28,858.18	2,885.82	6.35
合 計	454,203.08	45,420.31	100.00

出所: IFA 1991 年 10 月 10 日

表 195 コーヒー生産コスト推定 (91/92 年度) (2)

1ha あたり 20 枚 (60kg) 収穫の場合

項目	1ha 当り CR	1畝当り CR	構成比率 %
直接コスト			
1) 労 賃	199,252.76	19,925.28	26.70
2) 肥料及石灰	116,643.50	11,664.35	20.98
3) 農 薬	108,252.00	10,825.20	14.54
4) 機械維持費	48,826.50	4,882.65	6.54
5) 収穫請負費	151,200.00	15,120.00	20.25
6) 土地の経費	31,664.00	3,166.40	4.24
小 計	696,221.96	69,622.19	93.26
間接コスト			
1) 機械減価償却費	16,932.14	1,693.21	2.27
2) 金融費用	33,357.51	3,335.75	4.47
小 計	50,289.65	5,028.96	6.74
合 計	746,511.62	74,651.15	100.00

出所: IFA 1991 年 10 月 10 日

表 196 2005: 1990年の生産実績

州別	作付面積 / 1000ha	収穫面積 / 1000ha	生産量 / 1000t	単収 / kg/ha
北海道	549.5	548.4	298.0	543
東北	48.5	48.2	28.6	592
関東	41.4	41.4	20.3	492
中部	22.2	21.0	6.5	308
近畿	2.9	2.9	1.7	565
中国	3.0	1.4	0.1	123
全国計	667.5	663.3	355.2	536

出所: 186E

表 197 2005: 1991年の生産状況 (91年9月調査)

州別	作付面積 / 1000ha	収穫面積 / 1000ha	生産量 / 1000t	単収 / kg/ha
北海道	543.3	543.0	284.2	523
東北	51.6	51.3	29.7	579
関東	42.3	42.3	22.8	526
中部	21.1	21.1	6.5	308
近畿	3.1	3.1	1.7	554
中国	2.7	2.7	0.4	125
全国計	665.3	664.7	345.3	519

出所: 186E

表 198 2005: 過去5年間の生産推移

州別	1987	1988	1989	1990	1991
北海道	267.9	272.9	220.8	298.0	284.2
東北	20.7	23.6	29.2	28.6	29.7
関東	29.1	32.7	40.7	20.3	22.8
中部	5.8	10.5	6.6	6.5	6.5
近畿	1.9	1.5	2.2	1.7	1.7
中国	1.9	1.2	2.4	0.1	0.4
全国計	327.3	372.4	392.6	355.2	345.3

収穫面積 / 1000ha	1987	1988	1989	1990	1991
	649.4	702.5	660.0	663.3	664.7

出所: 186E

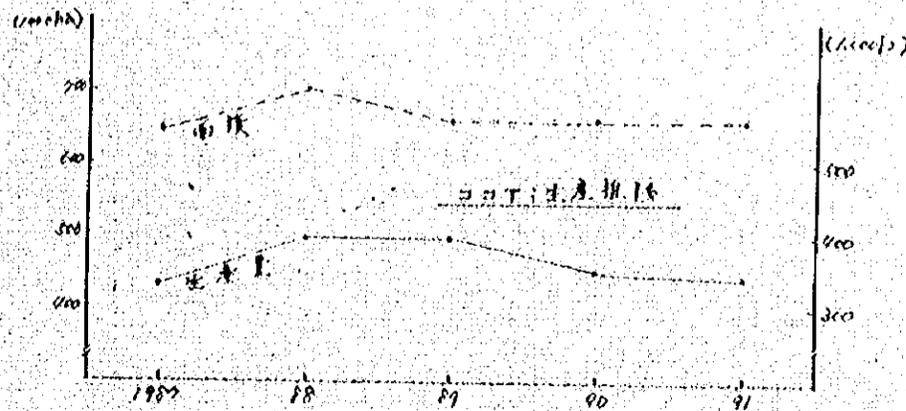


表 199 ココア: 主要生産国(国)別収量

国	別	1987	1988	1989	1990	1991
イ	1	485	490	651	543	623
イ	3	585	600	770	672	577
イ	1=イ	971	891	955	1192	1266
イ	スロバニア	267	486	226	308	308
イ	スロバニア	607	325	337	665	654
イ	全国平均	503	557	193	526	519

出所: 1991

表 200 ココア(豆)の輸出推移

年度	数量 1000t	金額 100万円	平均単価 万円/t
1981	125	242	1.929
82	144	216	1.505
83	133	284	1.857
84	107	249	2.322
85	122	361	2.994
86	134	273	2.037
87	143	266	1.860
88	134	215	1.602
89	107	134	1.252
90	118	128	1.082

出所: CACEX, DCEEX

表 201 ココア(豆)の輸出先市場 (1990年)

輸出先国	数量 t	金額 100万円
米	11,296	44,783
イ	18,370	21,368
イ	12,360	6,555
イ	2,260	8,119
イ	5,665	6,647
イ	5,340	5,648
イ	2,790	5,072
イ	3,780	7,061
イ	2,658	3,219
イ	11,607	13,613
イ	118,126	12,7485

出所: CACEX, DCEEX

表 202 ココア(豆)の輸入推移

年度	数量 1000t	金額 100万円	平均単価 万円/t
1981	23	195	2.688
82	37	59	2.179
83	52	119	2.269
84	67	194	2.895
85	69	181	2.635
86	53	131	2.442
87	42	99	2.357
88	46	95	2.071
89	73	73	1.698
90	27	42	1.531

出所: CACEX, DCEEX

表 203 ココアール・カカオの輸出先市場 (1980年)

輸出先市場	数量 (t)	金額 (1000円)
ソ 連	10,100	14,240
米 国	8,928	13,919
アイルランド	3,859	6,279
ハンガリー	900	1,625
オーストラリア	1,019	1,609
ポランド	625	989
ギリシア	964	850
南アフリカ連邦	300	478
その他	1,145	1,865
計	27,340	41,858

出所: DECEN

表 204 ココアール・カカオの輸出推移

年次	数量 (1000t)	金額 (1000円)	平均単価 (円/t)
1981	29	145	4,991
82	31	130	4,192
83	32	129	4,004
84	36	168	4,687
85	43	203	4,752
86	44	199	4,522
87	44	184	4,229
88	47	171	3,638
89	34	100	2,941
90	47	136	2,875

出所: CADEX DECEN

表 205 ココアール・カカオの輸出先市場 (1990年)

輸出先市場	数量 (t)	金額 (1000円)
米 国	29,349	66,913
オーストラリア	9,939	29,535
ソ 連	4,600	12,080
日 本	3,460	9,257
アイルランド	1,008	2,307
ギリシア	790	2,567
ハンガリー	905	2,330
オーストラリア	083	2,569
カナダ	693	2,143
その他	1,295	4,092
計	47,222	135,785

出所: DECEN

3.4.3 輸出

表 206 1990年12月1日現在の状況

川別	作付面積 / a	収穫面積 / a	中. 産. 量 / a	単. 収 / a
10 号	31.2	30.2	68.1	2.257
エスエフサト	2.0	2.0	4.9	2.436
マラニオン	0.5	0.5	1.1	2.355
バ イ ー	0.2	0.2	0.5	2.600
其 他	0.4	0.3	0.1	333
全 国 計	34.3	33.2	74.7	2.247

出所: 180E

表 207 1971年の生産状況(9月1日現在)

川別	作付面積 / a	収穫面積 / a	生産量 / a	単. 収 / a
10 号	24.3	23.3	25.8	2.275
エスエフサト	2.3	2.3	5.5	2.439
マラニオン	0.5	0.5	1.1	2.382
バ イ ー	0.2	0.2	0.6	3.019
其 他	0.3	0.3	0.2	667
全 国 計	27.6	26.6	33.2	2.273

出所: 180E

表 208 1987: 主要生産川別単収

川別	1987	1988	1989	1990	1991
10 号	2.262	2.593	2.581	2.257	2.275
エスエフサト	2.668	2.259	2.378	2.436	2.439
マラニオン	1.161	1.113	1.464	2.355	2.382
バ イ ー	1.345	1.140	2.571	2.608	667
全国平均	2.206	2.490	2.341	2.247	2.273

出所: 180E

表 209 1987: 過去5年間の生産推移

川別	1987	1988	1989	1990	1991
10 号	42.0	55.8	63.1	68.1	25.8
エスエフサト	3.0	2.8	3.3	4.9	5.5
マラニオン	0.4	0.4	0.5	1.1	1.1
バ イ ー	0.3	0.2	0.4	0.5	0.6
其 他	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2
全 国 計	45.9	59.4	65.5	74.7	33.2

収穫面積 / a	20.8	23.9	29.2	33.2	36.6
----------	------	------	------	------	------

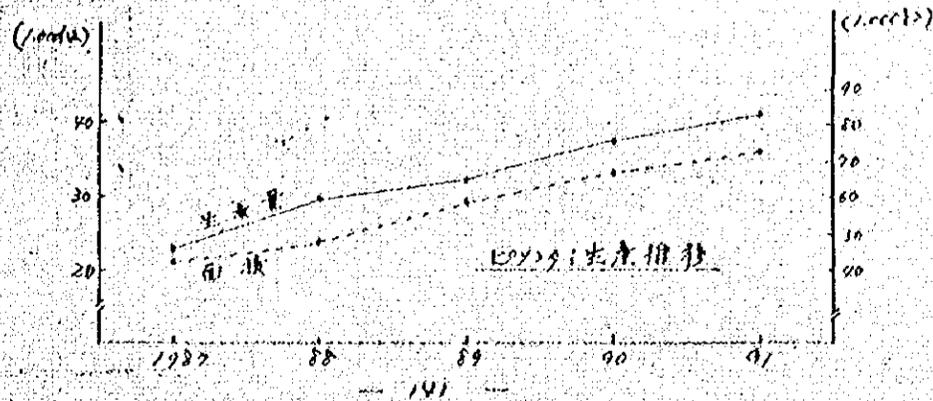


表 210 小麦(黒)の輸出入状況

輸出入先国	数量 t	金額 100万円
米 国	9,600	14,237
西 独	1,238	5,718
オランダ	2,458	3,212
フランス	2,463	3,230
メキシコ	899	1,418
ソ 連	800	1,210
スウェーデン	915	1,205
その他	855	1,104
合計	27,109	38,443

資料: DECEX

表 211 小麦(白)の輸出入状況

輸出入先国	数量 t	金額 100万円
ソ 連	650	1,624
オランダ	79	142
メキシコ	44	107
西 独	69	93
オランダ	22	67
米 国	16	37
フランス	15	21
その他	19	27
合計	904	2,138

資料: DECEX

3. 9. 9 プラタ

表 212 プラタ: 1990年の生産状況

川 別	作付面積 1000ha	収穫面積 1000ha	生産量 1000t	単収 t/ha
パナマ	1.5	1.5	0.8	528
アマゾン	5.2	2.1	0.4	13
マダガスカル	0.8	0.8	0.2	278
その他	0.3	0.2	0.1	305
合計	7.8	4.6	1.5	155

資料: 189E

表 213 プラタ: 1991年の生産状況(71年7月調査)

川 別	作付面積 1000ha	収穫面積 1000ha	生産量 1000t	単収 t/ha
パナマ	1.6	1.6	0.9	526
アマゾン	7.1	7.1	0.5	63
マダガスカル	0.8	0.8	0.2	261
その他	0.2	0.2	0.1	412
合計	9.7	9.7	1.7	174

資料: 180E

表 214 2777) 主要生産地別の生産推移

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
バ イ ー	0.6	0.6	0.6	0.8	0.7
ア マ リ ー	-	-	-	0.4	0.5
マ ー ト	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2
ハ ー	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
其 他	0.6	0.9	0.5	-	-
全 国 計	1.6	1.9	1.4	1.5	1.7

収 穫 量 (1,000ha)	11.7	12.4	11.2	9.7	9.8
-----------------	------	------	------	-----	-----

出 所: 1992

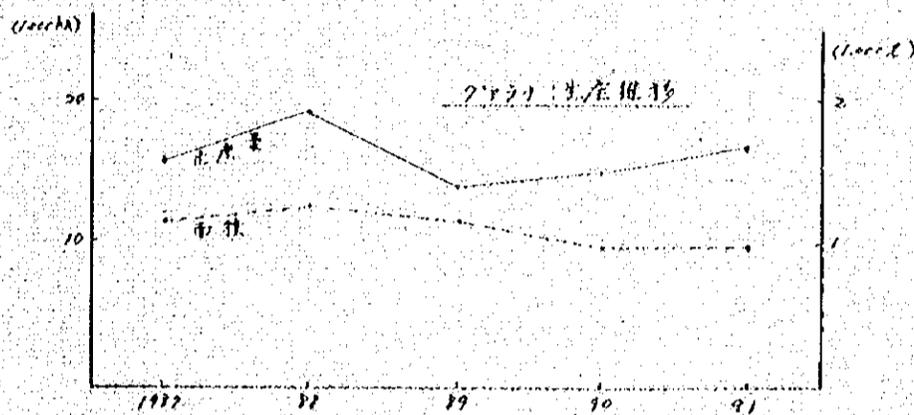


表 215 2777) 主要生産地の収 穫

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
バ イ ー	477	477	478	518	596
ア マ リ ー	-	-	-	63	63
マ ー ト	127	134	157	238	261
ハ ー	384	249	300	365	412
全 国 平均	135	156	172	155	172

出 所: 1992

3.5 果実類

3.5.1 オレンジ

1) 生産

表 216 オレンジ：1990年の生産実績

州別	作付面積 / 100ha	収穫面積 / 100ha	生産量 / 100万個	平均収量 / 100ha
サン・パウロ	222.7	222.9	22,325.0	100.055
セルジッペ	34.4	34.4	3,674.8	106.905
マトジジネ	34.4	34.2	2,449.7	71.657
パイタ	28.7	28.7	2,116.0	73.731
リオグランド・ドゥ・ノル	25.3	25.3	2,056.3	81.199
ミナス・ジェライス	33.4	33.4	2,020.1	60.425
パラナ	5.4	5.4	524.8	110.285
リオ・グランド	4.3	4.3	418.4	98.119
サント・カタリーナ	2.6	2.6	365.9	141.235
マツロイ	2.7	2.7	267.6	110.157
ゴヤス	3.6	3.6	258.0	72.028
アマソナス	1.4	1.3	180.8	134.604
ピタゴラス	1.4	1.4	154.7	124.113
ペルナンブーコ	2.5	2.4	137.1	56.074
その他	7.9	7.9	492.6	62.354
全国計	910.9	910.5	57,531.8	96.126

出所：IBGE

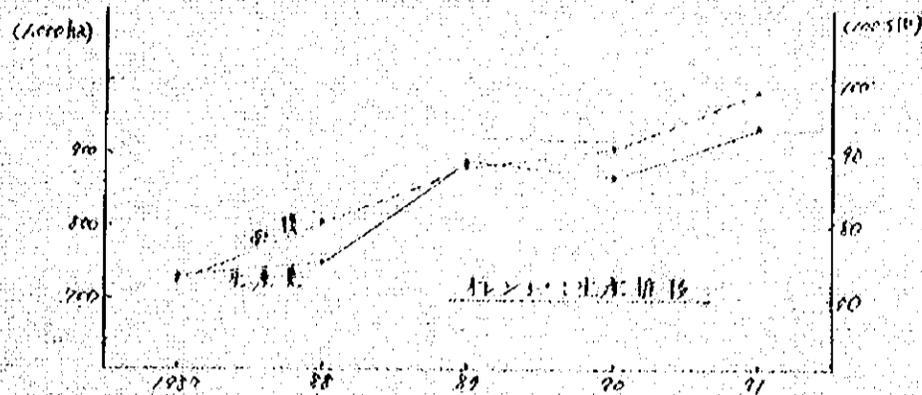
表 217 オレンジ：1991年の生産状況(71月7月調査)

州別	作付面積 / 100ha	収穫面積 / 100ha	生産量 / 100万個	平均収量 / 100ha
サン・パウロ	217.3	217.3	22,000.0	100.111
セルジッペ	35.6	35.6	3,583.2	100.731
マトジジネ	34.1	34.1	2,147.3	71.743
パイタ	32.3	32.3	2,373.2	74.113
リオグランド・ドゥ・ノル	33.7	33.7	2,643.1	60.654
ミナス・ジェライス	24.7	24.7	1,876.9	76.202
パラナ	6.8	6.8	890.5	131.733
リオ・グランド	4.4	4.4	440.0	100.000
サント・カタリーナ	3.3	3.3	372.9	113.425
ゴヤス	4.3	4.3	301.4	69.921
マツロイ	2.6	2.6	259.8	98.325
ピタゴラス	1.6	1.6	191.9	122.710
アマソナス	1.4	1.4	189.0	135.000
ペルナンブーコ	2.5	2.5	156.2	62.464
その他	8.1	8.1	545.4	67.333
全国計	984.9	984.9	74,710.8	96.115

出所：IBGE

国際相場変動が大きいオレンジの生産原料として下落する国際相場動向に左右される
 3. 部門であるが、果実数年間に到来した価格の高騰とくに米国フロリダ州の隣部に伴う国際相場
 の高騰が1990年に数回にわたって起り、その都度国内相場を押し上げ、オレンジの生産も拡大したと

このオレンド栽培の増加は、年毎に高702万箱の増加を記録し、増産の55%以上はオレンド栽培物の増加による。



1991年7-9-1にもとづく最新の栽培面積は、1990年が910.5千ハクタール、91年度が984.9千ハクタールで100万ハクタール台へと接近している。国内の生産分布は、サンパシロ川を合流南東地方がもっとも大きく、東北地方がそれに続く。州別の生産規模としては、サンパシロ川が圧倒的に大きく、90年度の実績をみると収穫面積に占める全国の80%、生産量に占めて83%を占めている。東北地方では、セルズン川が最大の生産地帯で、全国生産量の40%を占めてサンパシロ川に続く重要な生産地帯となっている。その他、南東地方に属するリネア・イロ川(28%)、東北地方のハイ川(24%)、南部地方のリネア・イロ川(23%)、サンパシロ川に隣接するミナス・ジライス川(23%)を主要生産地帯とする形勢は変わっていない。

オレンドの生産量については、生産統計の公式換算であるIBGE(ブラジル地理統計院)の毎年発表する生産統計は相対値も公表されていない。91年の生産量を94,770百万箱と推定している。これに対して果樹(生産者、中央市場、加工工場、新興企業)の指数を用いて、91/92年度年の生産量を300百万箱(1箱の重量40.8kg)と推定している。この中で、サンパシロ川の生産量は245百万箱である。

表 218 オレンド：過去5年間の生産推移 (10,000箱)

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サンパシロ	60,635.0	63,115.0	71,935.0	72,325.0	79,000.0
セルズン	3,748.4	3,366.6	3,529.3	3,674.8	3,653.2
ハイ川	2,033.7	2,059.9	2,521.2	2,449.7	2,442.3
ハイ	1,160.1	1,242.5	1,940.5	2,116.0	2,373.2
ミナス・ジライス	2,111.5	2,321.9	2,126.2	2,020.1	2,043.1
リネア・イロ	1,915.9	1,629.2	2,65.5	2,056.8	1,876.9
その他	2,561.2	1,830.1	6,598.5	2,889.9	5,348.1
全 国 別	73,668.8	75,665.2	87,016.2	87,631.8	94,770.8

収穫面積 1,000ha	726.6	805.7	882.6	910.5	984.7
--------------	-------	-------	-------	-------	-------

出所: IBGE

表 2/7

オレシコ：主要生産地の収量

kg/ha

州	1987	1988	1989	1990	1991
ワシントン	102,218	96,877	105,261	100,055	101,114
オレゴン	106,225	109,587	108,528	106,905	100,331
カリフォルニア	62,383	63,186	71,240	71,657	71,743
アイダホ	19,885	21,000	21,224	23,751	10,554
ミズーリ	16,191	23,182	16,744	20,425	26,202
ワシントン州	87,251	94,542	86,290	81,177	131,223
全国平均	101,396	93,289	100,813	96,136	96,165

出所：1992

ロ) 国際市場とワシコルの関係

オレシコ部門でワシコルが国際市場に貢献しているのは、濃縮オレシコという一分野であり、世界最大の生産国かつ輸出国としての地位を築いている。オレシコ全体の国際市場には殆ど参加比率は少なく、輸出量は僅少である。ワシコルにとってもっとも関心が高い市場は国際濃縮オレシコ市場である。

濃縮オレシコ市場の消費市場は米国が圧倒的に大半を占めており、米国内の原料生産状況が濃縮オレシコ市場の国際相場（ニューヨーク取引市場相場）を左右する決り手となっている。当然世界最大の生産規模を持つワシコルの生産動向が国際相場に影響を与えることは当然であるが、ワシコルの場合はオレシコ市場の国内消費が、過去の段階に於て僅少であり、生産されたオレシコ大半が米国を中心とした世界の他国に輸出されている状況にあるため、ニューヨークの取引相場を動かす鍵は、あくまで米国のオレシコ生産者如何にかかっている。中でも米国最大のオレシコ生産地帯を擁するワシコ州の生産動向は、世界の相場を左右するに十分な力があり、過去数年置きに発生した降霜の影響が国際相場高騰のきっかけとなってきた。

米国のワシコ州に於ける生産動向が国際相場を大きく動かした最近の例としては、89年末の降霜による被害とそれに伴う価格の高騰、90年10月に USDA(米国農務局)が発表したワシコ州の生産回復と増産予想による相場の暴落、91年10月同じく USDAによるワシコ州の減産予想にもとづく相場の上昇があげられる。

過去の記録を見るとワシコ州に於ける降霜の発生は、12月と1月に集中しており、中でもクリスマス前後に発生年がもっとも多く、又1月20日が降霜のリスクのある最後の日とされている。91年末の降霜は、クリスマスの24,25日に発生し、被害率75%（降霜前の収穫予想130百万箱を100百万箱に

高値)という従来の細かな例と比較して中位の価格状況(陽気最大の相場は、1962年の36¢、1982年の30¢)で、2000年ニューヨーク取引市場の相場は12月中旬に前年同月の水準より126.66セントより160.05セントへと上昇、1月には200セントの大値を成す暴落と引かれ、3月の間に120セント前後にも大値相場の高値を60セント以上下げて出現された。

この高値は、91年8月末で継続し、9月に入ると10月に行われるUSDAの次期生産予測を前に買い控えが起ち下降を開始し、100セント台を半ばまで維持する状況に陥る。10月に行われるUSDAによる709万州の生産予測(前年より120万箱と大巾に上回る160万箱と発表されたこと)からニューヨーク取引市場の相場は110セントへと暴落し、以後1年間にはわたって120セント前後を低迷する低い相場時期を作ることとなる。

91年を支配した低値は、3月の間に100セントを直撃し、70年の水準とは激しく低減した相場を形成し、それまで続いていたオレンジ園採火の傾向は中断し、オレンジ加工工場(シトロピクタ社)のオレンジ生産者の工場閉鎖の懸念が低下した問題の発生した。

1年間にはわたる低い相場は、12月に転じたのは前年の場合と同様に10月に行われるUSDAによる次期709万州の生産予測にもよるもので、91年の場合は前年とは激しく一般に下振された160万箱前後の生産量から130万箱と発表されたこと相場は一転して上昇傾向に入り、以後92年1月に入ると高値が打ち出される。

このように上下を繰り返したニューヨーク取引市場の相場は、次の通りである。

表 220 ニューヨーク取引市場の濃縮オレンジ加工相場

年	月	12月	15¢	備考
1989年	12月	126.65	~ 160.05	709万州の降霜
1990年	1月	168.05	~ 176.50	1月23日204.85セントを記録
	2月	194.50	~ 204.85	2月29日最高記録と出現
	3月	188.75	~ 195.20	高値維持
	4月	178.75	~ 185.30	"
	5月	188.50	~ 194.30	"
	6月	172.60	~ 177.55	709万州の増産が予想外に低かったことから相場は下る。
	7月	177.65	~ 164.95	相場は下降傾向に入る。
	8月	163.90	~ 148.30	10月のUSDA発表を前に取引市場
	9月	143.90	~ 132.10	10月12日USDAの次期生産予測の結果相場暴落
	10月	132.40	~ 110.75	低価格の時代に入る。
	11月	111.90	~ 110.50	月末のオレンジ加工相場に影響する低値維持。
	12月	110.30	~ 116.15	3月のUSDAの次期生産の減産の予想に若干の復調がみられる。
1991年	1月	111.15	~ 119.35	

1991年	2月	119.10	~	110.10	10月15日買付の100株 10月20日の出来高が現物相場より低く 10月25日の出来高が現物相場より低く 10月30日の出来高が現物相場より低く 11月5日の出来高が現物相場より低く 11月10日の出来高が現物相場より低く 11月15日の出来高が現物相場より低く 11月20日の出来高が現物相場より低く 11月25日の出来高が現物相場より低く 12月1日の出来高が現物相場より低く 12月5日の出来高が現物相場より低く 12月10日の出来高が現物相場より低く 12月15日の出来高が現物相場より低く 12月20日の出来高が現物相場より低く 12月25日の出来高が現物相場より低く 12月30日の出来高が現物相場より低く
	3月				
	4月	118.10	~	115.40	4月の相場も取引の少なさから 相場が低迷した。5月10日には 117.10までの下落記録を残し た。
	5月	145.50	~	120.90	米国の生産が大幅に伸びたこと から相場が反騰した。5月15日には 120.90までの上昇記録を残した。
	6月	122.90	~	113.90	月末にかけて下落した相場が反 騰し低値を維持した。
	7月	114.85	~	112.10	7月の相場は112.10までの下落 記録を残した。
	8月	111.80	~	119.25	8月の相場は119.25までの下落 記録を残した。
	9月	118.60	~	122.10	9月の相場は122.10までの下落 記録を残した。
	10月	121.20	~	168.50	10月15日の出来高が現物相場より 低く、10月20日の出来高が現物 相場より低く、10月25日の出来高 が現物相場より低く、10月30日の 出来高が現物相場より低く、11月 5日の出来高が現物相場より低く、 11月10日の出来高が現物相場より 低く、11月15日の出来高が現物 相場より低く、11月20日の出来高 が現物相場より低く、11月25日の 出来高が現物相場より低く、12月 1日の出来高が現物相場より低く、 12月5日の出来高が現物相場より 低く、12月10日の出来高が現物 相場より低く、12月15日の出来高 が現物相場より低く、12月20日の 出来高が現物相場より低く、12月 25日の出来高が現物相場より低く、 12月30日の出来高が現物相場より 低く
	11月	176.20	~	168.40	11月に入ると更に上昇して170を 超え、11月15日には176.20と 最高値を記録した。11月20日には 170.90まで下落した。11月25日 には168.40まで下落した。12月 1日には168.50まで下落した。
	12月	165.45	~	166.50	12月の相場は166.50までの下落 記録を残した。
92年	1月	153.45	~	143.00	1992年の相場は143.00までの下落 記録を残した。

出典: GACCA MEMORIAL

濃縮オレシニ・エースの輸出は、このように国際相場の影響を受け、年々の変動と増減を
 見てくる。過去24年間を見れば、90年度には、10月のUSDの暴落により暴落したのみならず、10月
 10月である。このことから年間の大半の高値相場時に輸出された。更にこの高値を利用し、最大の数量
 (954千ト)を輸出された。平均単価は、1985年の1ト当たり1,544.1に劣る1,529.2である。この
 輸出金額は、85年の記録を破る14.7億ドルと記録された。

90年とは逆に、91年は10月のUSDの暴落により相場の上昇を招き、年間の大半の低値相場（平均）
 により、10月間の統計で平均単価は1ト当たり910と低く、従って輸出金額も10月だけで666百万
 ドルに止まると、年間を通じた輸出額が10億ドルを越すのは困難な状況となっている。

濃縮オレシニ・エースの輸出先市場は、90年以前は降霜の被害を受けた米国の最大の輸
 入(6.2億ドル)を行っていた。91年は、オランダが米国の抜いて最大の市場となっている。ブラ
 ールの濃縮オレシニ・エース輸出金額は、総数40社である。

表 221 濃縮オレシニ・エースの輸出推移

年 度	単 位: 千ton	金 額: 100万ドル	平均単価: US\$/t
1981	629.1	659.1	1,031
82	571.2	573.4	1,100
83	553.1	607.9	1,099
84	904.8	1,414.5	1,563
85	450.8	748.9	1,644
86	508.3	682.2	840
87	755.0	850.8	1,110
88	663.6	1,144.3	1,724
89	773.9	1,019.0	1,407
90	953.9	1,458.4	1,532

出所: CACEX, DECEX

表 222 ブラールの輸出総額に占める濃縮オレシニ・エースの比率

年 度	輸出総額: 100万ドル	濃縮オレシニ・エース輸出額: 100万ドル	比率 (%)
1981	23,293	659	2.8
82	20,175	573	2.8
83	21,877	608	2.8
84	22,005	1,415	6.2
85	21,637	749	2.9
86	22,393	682	2.8
87	26,273	831	3.2
88	33,500	1,144	3.4
89	29,383	1,019	3.0
90	31,320	1,458	4.2

出所: CACEX, DECEX

表 223 港浦市レズレ・エ・ス・物産会社 (1990年)

輸出品名	数量 1,000t	金額 FOB 100万円	平均単価 100%
米	401.4	617.3	1.538
オランダ	306.2	1124.5	1.060
バナナ	114.8	128.1	1.114
バナナ	34.7	57.5	1.660
バナナ	34.8	49.0	1.410
バナナ	20.6	35.6	1.726
バナナ	15.4	24.2	1.565
バナナ	4.6	7.5	1.637
バナナ	3.4	6.4	1.772
バナナ	2.8	5.7	1.880
バナナ	2.3	5.2	1.567
バナナ	3.0	4.9	1.634
バナナ	2.2	3.5	1.622
バナナ	1.2	1.8	1.519
バナナ	9.3	7.2	-
計	953.9	1468.4	1.539

出所: DECEX

表 224 港浦市レズレ・エ・ス・物産会社 (1991年1-10月)

輸出品名	数量 1,000t	金額 FOB 100万円	平均単価 100%
オランダ	274.6	264.4	926
米	230.9	207.1	897
バナナ	84.6	76.4	903
バナナ	44.2	39.0	882
バナナ	30.8	29.2	950
バナナ	19.6	17.5	892
バナナ	14.2	12.8	901
バナナ	7.3	7.1	972
バナナ	6.4	5.3	823
バナナ	3.6	3.2	886
バナナ	2.9	2.8	953
バナナ	3.0	2.7	922
バナナ	9.6	8.9	-
計	731.7	666.4	910

出所: DECEX

表 225 港浦市レズレ・エ・ス・物産会社 (1990年)

輸出品名	金額 FOB 100万円	主要輸出品名
SUCOCITRICO CITRALE S.A.	407.1	米, オランダ, 西独
CITROSUCO PAULISTA S.A.	248.5	米, バナナ, カナダ
TRUTESP S.A.	190.2	オランダ, 米, 日本
CARGILL - CITRUS LTDA	85.6	米, 日本, カナダ
MONTECITRUS TRADING S.A.	82.0	オランダ, 米, 日本
TRUTROPIC S.A.	63.2	オランダ, 米, バナナ
CITRO PECTINA S.A.	38.0	西独, オランダ, 米
BRANCO PERES CITRUS S.A.	26.7	米, オランダ
CARGILL TRADING S.A.	25.9	オランダ, 米, カナダ
TRUTENTE IND. DE FRUTOS S.A.	18.5	オランダ, 米
BRACITRUS AGRO IND. S.A.	17.5	米, バナナ, オランダ
その他	148.0	-
計	1468.4	-

出所: DECEX

ハ) 国内相場

エース工場よりオレン生産者の受取価格、すなわち工場への出荷価格については、エース工場市場の相場を基準として行なうことから従前のとおり、エース工場相場の上下はオレン生産者の受取価格も上下、相場が下れば生産者の受取価格も落ちる傾向とされている。

過去 88/89 年より 89/90 農年における 3ヶ年間の1箱当りの価格は、0.350前後の高い水準にあり、91年度についても同様の価格を暫定的に0.260と定め、これを基準として契約時英で0.140、残りの農年の終る91年6月まで月払いとし、農年の終了時英で過去1年間のエース工場相場を基準として精算を行なうこととされている。90年10月10日付のオレン生産者協会は、エース工場相場を暴落させたことの結果1箱当りの生産者価格も0.110に下落したため、すでに前借金と、毎月のお払いを受付けていたオレン生産者は、工場に対し払戻しを行なうか、債務を次期の生産物で精算せねばならぬ破綻に陥いることになり、深刻な情勢となつた。91年10月予測したところ、エース工場相場の上昇によって返済を見込めばもう若しこの相場の高騰が再びあれば極めて深刻な情勢である。目下大きく変動する濃縮オレンエース工場相場を存続りにして動きである。

表 206 オレン生産者受取価格の推移

年 度	円/箱 (40.8kg)
1987/88	3.23
1988/89	3.24
1989/90	3.54
1990/91	1.11

資料: NBRASSUCO

イ) 生産コスト

サンパウル州農務局農業経済研究所の発表による 91/92 農年の生産コスト平均は、次表の通りである。

表 227 北見産りんご生産コスト (1979年)

内 容	1979年	1978年	1977年	1976年
生産コスト				
労 賃	97,103	67,278	84,204	106,170
苗 代	76,890
肥料石灰	34,216	23,000	63,433	47,474
農 薬	11,007	28,877	43,086	22,615
機械燃料費	112,583	63,203	82,368	124,643
原田償却費	41,542	26,752	34,830	51,511
金融費用	37,816	21,883	22,775	47,351
計	413,159	230,995	340,915	446,784
1箱あたりコスト	1,405
100箱換算 (1ha当り)	676,75	378,37	558,42	731,83
100箱換算 (1箱当り)	2,30

出所: 150

表 228 北見産りんご生産コスト

内 容	1979年	1978年	1977年
1ha当り生産量 (箱)	524	560	564
生産コスト			
労 賃	28,036	20,428	33,653
苗 代
肥料石灰	141,414	82,077	142,407
農 薬	146,260	72,413	136,768
機械燃料費	64,327	47,748	60,723
原田償却費	41,112	34,361	37,735
金融費用	46,814	21,526	42,826
計	477,952	328,603	458,112
1箱あたりコスト	912	587	812
100箱換算 (1ha当り)	782,89	538,25	450,39
100箱換算 (1箱当り)	1,47	0,96	1,33

出所: 151

3.5.2 バナナ

表 229 バナナ: 1980年日生産実績

州 別	作付面積 (1000ha)	収穫面積 (1000ha)	生産量 (1000箱)	単収 (箱/ha)
バ イ ア	26,7	26,9	83,7	1,087
サ ン ハ イ ラ	43,2	43,2	64,8	1,500
ハ ー ラ	27,4	26,9	42,9	1,593
サ ン タ カ リ ナ	29,3	29,2	42,5	1,453
ハ ー ナ マ	31,1	30,7	39,7	1,282
ミ ナ ス レ イ ス	35,8	35,2	35,7	1,015
リ ナ マ	34,5	34,5	34,0	989
セ ア ラ	37,1	37,1	32,2	867
ハ マ イ ハ	18,5	18,5	28,4	1,534
マ ト フ ヨ	25,3	25,3	26,1	741
全 国 計	493,0	489,4	550,2	1,129

出所: 189B

表 230

八丁：1991年の生産推移(41年9月調査)

川 別	年別面積 / 100ha	収穫面積 / 100ha	生産量 / 1000kg	平均収量 / t/ha
サシ・ハコクワ	44.8	44.8	81.0	1.808
ハコイア	25.8	25.8	80.1	1.056
サシ・カクワ	20.6	20.5	43.3	1.417
ハコクワ	21.3	21.3	39.3	1.258
ハコクワ	26.4	26.4	58.7	1.465
セアア	39.8	37.8	56.2	910
サシ・カクワ	34.2	34.2	35.6	1.040
サシ・カクワ	34.6	34.6	34.3	989
サシ・カクワ	25.8	25.8	27.1	556
ハコイア	18.6	18.6	25.7	1.385
その他	118.7	118.7	121.3	1.022
全国平均	490.6	490.5	663.0	1.148

出所：1991年

表 231

八丁：昭和55年10月調査

川 別	1987	1988	1989	1990	1991
サシ・ハコクワ	69.1	53.2	69.9	64.8	81.0
ハコイア	26.7	21.8	20.1	23.7	20.1
サシ・カクワ	39.0	37.6	40.6	42.5	43.3
ハコクワ	33.5	32.6	39.4	39.7	39.3
ハコクワ	20.7	22.2	23.6	22.9	28.7
その他	272.1	271.9	266.9	276.6	280.6
全国平均	513.1	511.8	550.5	550.2	563.0
収穫面積 / 100ha	447.4	466.0	483.2	487.4	490.5

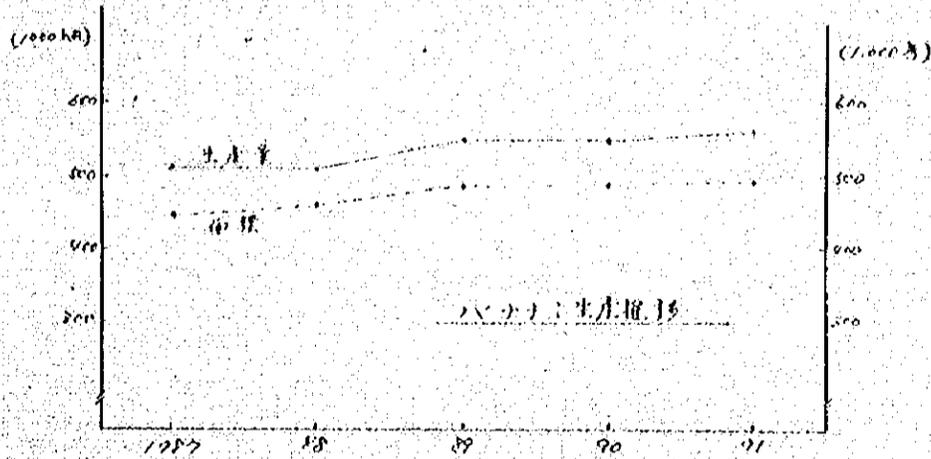


表 232

八丁：主要生産地の収

川 別	1987	1988	1989	1990	1991
サシ・ハコクワ	1.393	1.150	1.553	1.500	1.808
ハコイア	1.183	1.240	1.209	1.089	1.056
サシ・カクワ	1.449	1.483	1.482	1.453	1.417
ハコクワ	1.491	1.221	1.336	1.222	1.258
ハコクワ	1.361	1.416	1.598	1.593	1.465
全国平均	1.147	1.088	1.137	1.127	1.148

出所：1991年

表 233

1981年10月17日(1981年10月)の状況

川 別	作付面積 / ha	収穫面積 / ha	生産量 / ton	単収 / kg/ha
ハナハ - ハ	11.5	9.4	224.2	30,372
ミナエライス	10.0	10.0	126.0	18,620
ハ 1 T	2.3	2.2	45.6	19,949
ハルナンゴ	1.8	1.7	22.0	19,451
エスビトサト	1.3	1.3	20.2	22,777
ホクササト	1.5	1.3	28.5	22,028
アゴアス	0.9	0.9	21.0	23,120
サハライ	1.0	1.0	17.7	20,250
その他	4.3	4.2	76.8	18,286
全国計	34.6	32.1	724.0	22,561

出所: 189E

表 234

1981年10月17日(1981年10月)の状況

川 別	作付面積 / ha	収穫面積 / ha	生産量 / ton	単収 / kg/ha
ハナハ 1 ハ	10.7	10.7	307.3	28,797
ミナエライス	9.9	9.9	196.3	19,772
ハ 1 T	2.5	2.5	48.7	19,623
ホクササト	2.0	2.0	43.4	22,097
エスビトサト	1.8	1.8	40.9	22,645
ハルナンゴ	2.0	2.0	36.3	18,003
アゴアス	0.9	0.9	21.2	23,467
サハライ	0.6	0.6	12.7	20,589
その他	4.2	4.2	72.9	17,595
全国計	34.6	34.6	726.8	22,766

出所: 189E

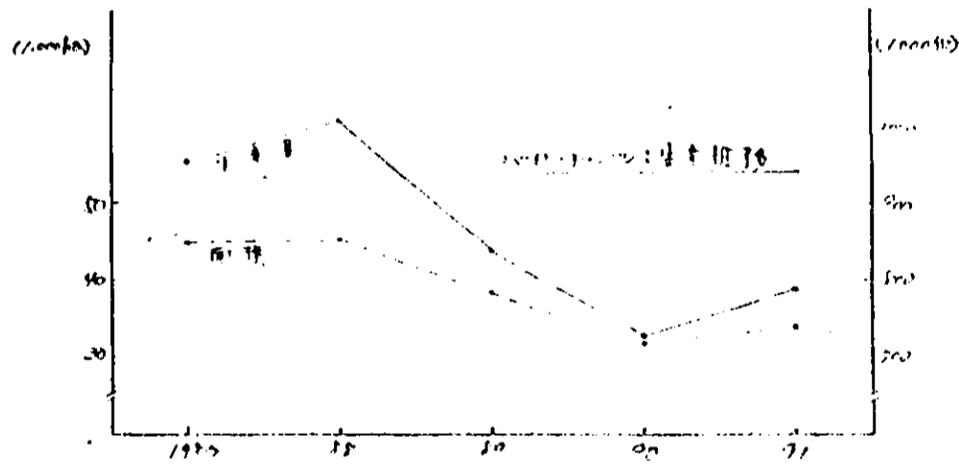


表 235

1987年10月17日(1987年10月)の状況

川 別	1987	1988	1989	1990	1991
ハナハ 1 ハ	426.4	451.5	322.5	284.2	307.3
ミナエライス	226.1	241.8	225.0	126.0	196.3
ハ 1 T				45.6	49.9
ホクササト	26.6	22.4	13.2	28.5	43.4
エスビトサト	30.8	24.4	25.5	20.2	40.7
その他				149.5	150.0
全国計	957.4	1,012.8	828.8	724.0	726.8

収穫面積 / ha	45.7	46.1	38.0	32.1	34.6
-----------	------	------	------	------	------

出所: 189E

表 236

ハワイ・アロハ: 主要生産地の収収

州 別	10/ha				
	1987	1988	1989	1990	1991
ハワイ	25.220	28.149	29.012	30.373	28.797
マズ・レイアイ	18.782	17.664	18.792	18.690	19.772
ハワイ				19.749	19.623
オアフ	24.181	25.745	25.713	22.028	22.097
モロカイ	25.666	24.127	23.431	22.799	22.645
全国平均	20.945	21.980	22.072	22.561	22.766

出所: 186E

3.5.4 ぶどう

表 237

ぶどう: 1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
オアフ	40.0	40.0	538.7	13.459
マズ・レイアイ	8.8	8.8	126.2	14.342
マウナロア	4.7	4.7	70.8	15.039
ハワイ	2.7	2.7	36.0	13.192
モロカイ	1.1	1.1	14.5	12.716
全国計	57.4	57.4	786.2	13.699

出所: 186E

表 238

ぶどう: 1991年の生産状況(91年9月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単収 kg/ha
オアフ	40.0	40.0	395.9	9.901
マズ・レイアイ	8.9	8.9	122.8	13.739
マウナロア	4.3	4.3	44.1	10.275
ハワイ	2.9	2.9	38.8	13.321
モロカイ	1.2	1.2	17.1	13.781
全国計	57.4	57.4	618.8	10.788

出所: 186E

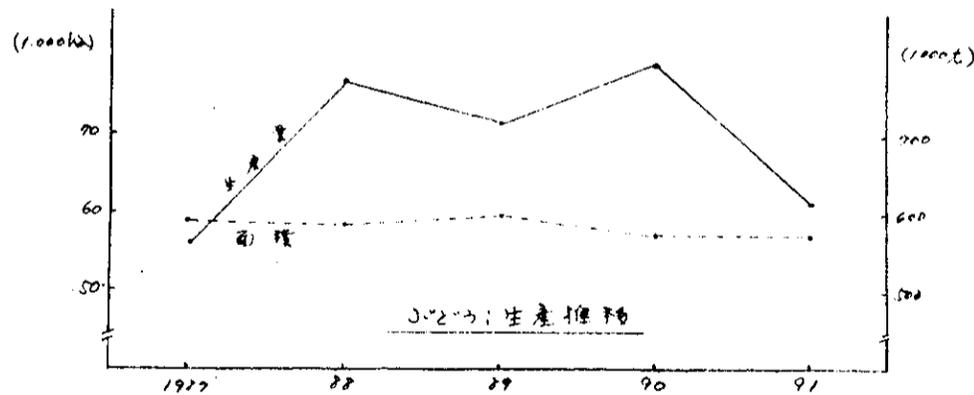


表 239

ぶどう: 過去5年間の生産推移

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
オアフ	351.4	541.8	471.6	538.7	395.9
マズ・レイアイ	107.2	99.4	106.0	126.2	122.8
マウナロア	60.0	77.8	74.3	70.8	44.1
ハワイ	24.6	20.1	24.9	36.0	38.8
その他				14.5	17.1
全国計	566.0	771.7	716.6	786.2	618.8

収穫面積 1,000ha	58.8	58.3	59.2	57.4	57.4
--------------	------	------	------	------	------

出所: 186E

表 240 小麦の主要生産地の収収

川 別	1987-1990				19/ha
	1987	1988	1989	1990	
特ダラシチシロ	8,827	13,177	11,622	13,459	9,901
サシハシロ	11,505	11,588	11,622	14,362	13,739
サシカサリ	10,207	14,070	13,647	15,039	10,295
ハシロ	11,056	12,328	13,327	13,192	13,321
全 国 計	9,625	13,230	12,110	13,697	10,788

出 所: 1991

3.6 野菜類

3.6.1 トマト

表 241 トマト: 1990年の生産実績

川 別	作付面積 / ha	収穫面積 / ha	生産量 / t	単 収 / 19/ha
サシハシロ	15.4	15.4	593.5	38.636
コシヤス	6.9	6.9	320.4	46.467
サシカサリ	5.8	5.8	283.3	48.725
ハシロ	10.2	10.0	269.6	27.020
ハシロ	7.7	7.7	236.4	30.624
サシカサリ	3.0	3.0	147.2	49.357
ハシロ	2.0	2.0	77.6	33.574
サシカサリ	1.5	1.5	72.1	47.925
サシカサリ	1.7	1.6	69.1	42.450
サシカサリ	2.8	2.8	61.5	22.030
サシカサリ	3.9	3.7	134.6	
全 国 計	61.1	60.6	2,255.3	35,208

出 所: 1991

表 242 トマト: 1991年の生産状況(91年9月調査)

川 別	作付面積 / ha	収穫面積 / ha	生産量 / t	単 収 / 19/ha
サシハシロ	14.4	14.4	668.3	46.406
ハシロ	11.3	10.2	517.5	31.188
サシカサリ	6.1	6.1	267.5	43.702
コシヤス	5.4	5.4	231.1	43.122
ハシロ	6.5	6.5	214.9	33.073
サシカサリ	3.2	3.2	156.9	47.105
ハシロ	2.2	2.2	81.9	36.668
サシカサリ	1.5	1.5	78.3	51.864
サシカサリ	1.7	1.7	71.8	42.377
サシカサリ	2.9	2.7	86.6	19.605
サシカサリ	4.7	4.5	1264.2	
全 国 計	59.7	58.6	2,309.0	39.370

出 所: 1991

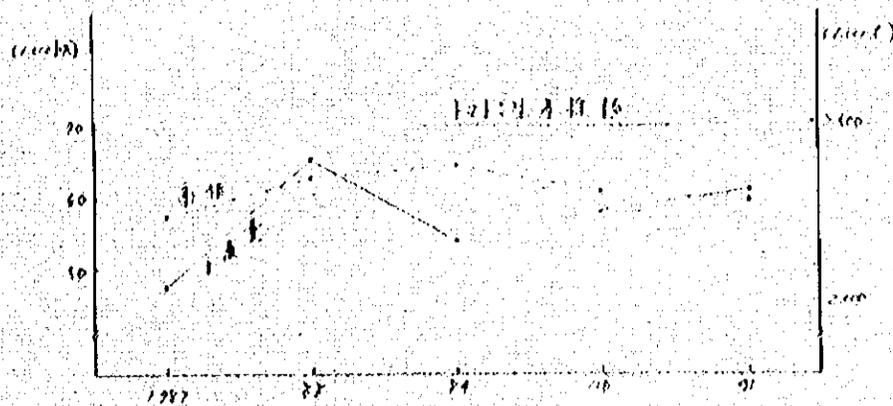


表 243 12月分月産量5年間の生産総量

川別	1987	1988	1989	1990	1991
サハハク	733.8	711.4	585.2	593.5	668.3
ノルナ	300.7	497.6	487.2	267.6	317.5
ヨナ	186.2	168.8	182.1	283.3	262.5
カ				320.4	221.1
ハ	267.7	327.6	316.3	236.4	211.3
ク				583.1	609.7
全国計	2047.3	2406.7	2172.5	2255.3	2357.0

収獲面積 / ha

年	1987	1988	1989	1990	1991
収獲面積	52.6	62.8	64.5	60.6	58.6

乳牛: 1000

表 244 12月分月産量10年間の平均

川別	1987	1988	1989	1990	1991
サハハク	41.931	41.966	42.483	38.626	41.406
ノルナ	25.483	36.671	31.279	27.220	21.188
ヨナ	40.428	41.261	42.127	48.225	42.212
カ				41.412	43.153
ハ	25.220	26.135	23.228	30.154	23.093
全国平均	28.574	38.328	33.280	37.248	29.220

乳牛: 1000

表 245 12月(標準川)の生産者受取単価

月別	1987	1990	1991
1	5.83	52.64	758.21
2	10.68	236.10	1,415.59
3	16.36	257.34	2,300.58
4	17.42	327.67	2,614.14
5	15.60	615.25	2,222.18
6	17.42	962.57	1,772.78
7	15.60	1,158.14	1,640.81
8	14.30	1,259.08	1,616.51
9	12.87	1,155.61	2,170.36
10	11.33	718.80	2,957.23
11	16.10	860.38	3,118.42
12	38.29	823.14	

乳牛: 120

表 246 1-2 (工業系利用) : 生産者 変更 10-15-

1987

月 別	1987	1990	1991
1	...	0.11	...
2	...	0.10	...
3
4	0.06
5	0.09	0.15	20.88
6	0.12	5.01	23.75
7	0.12	5.25	23.94
8	0.13	6.94	25.28
9	0.17	2.60	28.44
10	0.24	2.41	32.59
11	0.44	2.80	...
12	0.24	10.05	...

出所: IFA

3.6.2 ジャガイモ

表 247 ジャガイモ: 1990年の生産実績

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単 収 t/ha
ハロワナ	41.6	41.3	616.5	14.927
ミクス・エニリス	28.7	28.4	535.1	18.842
サン・ハロワ	25.1	25.1	505.9	20.155
特クワリ・リスル	41.8	41.7	329.5	8.141
サマ・カサリナ	18.2	18.1	181.4	10.022
その他	4.2	3.3	40.7	12.319
全 国 計	159.6	157.8	2,219.1	14.066

出所: ICGE

表 248 ジャガイモ: 1991年の生産状況(91年9月調査)

州 別	作付面積 1,000ha	収穫面積 1,000ha	生産量 1,000t	単 収 t/ha
ハロワナ	41.9	41.9	639.9	15.272
サン・ハロワ	26.9	26.9	568.8	21.145
ミクス・エニリス	24.8	24.8	485.1	19.560
特クワリ・リスル	45.9	45.5	323.5	7.110
サマ・カサリナ	18.4	18.2	162.1	8.907
その他	2.8	2.8	24.4	8.714
全 国 計	160.7	160.1	2,213.8	13.828

出所: ICGE

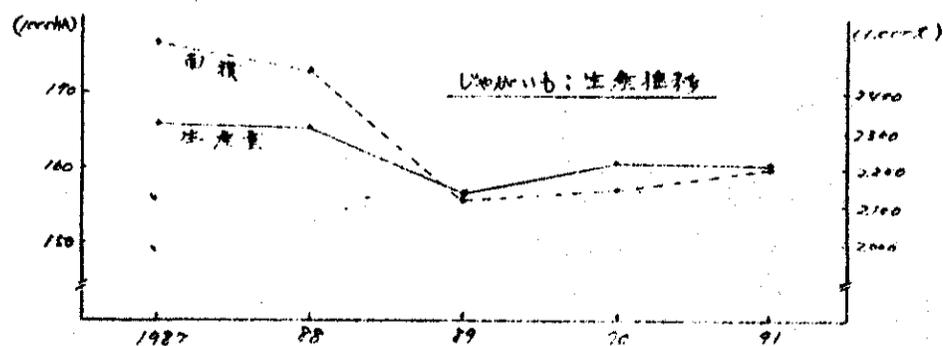


表 249 UYUUB: 田んぼの平均収量 (t/ha)

川 別	1989	1988	1989	1990	1991
ハコブナ	662.1	660.5	501.4	616.5	629.9
サシハコブ	574.8	500.6	525.0	505.9	568.8
サササササ	601.4	600.4	577.1	535.1	485.1
サササササ	274.3	215.2	274.3	279.5	323.5
サササササ	180.6	120.0	162.3	181.4	162.1
その他	37.6	63.3	72.2	40.9	24.4
全国計	2,330.8	2,315.0	2,122.3	2,219.1	2,313.8

収獲面積 1,000ha 196.9 193.7 156.8 152.8 160.1
 収率: 180%

表 250 UYUUB: 主要生産地の収量 (t/ha)

川 別	1987	1988	1989	1990	1991
ハコブナ	13,189	13,403	13,790	14,927	15,272
サシハコブ	19,100	19,740	19,962	20,155	21,145
サササササ	18,060	18,081	18,721	18,842	19,560
サササササ	6,462	7,443	7,164	8,141	7,110
サササササ	8,240	9,202	11,780	10,022	8,907
全国平均	13,779	13,325	13,602	14,066	13,828

収率: 180%

表 251 UYUUB: 主要生産地の収量 (t/ha)

月 別	1989	1990	1991
1	7.80	207.13	3,680.09
2	19.45	298.10	3,877.77
3	25.13	602.89	5,001.22
4	25.18	921.13	7,874.71
5	32.32	979.76	8,668.45
6	51.42	1,052.14	7,572.77
7	40.97	1,502.93	6,455.93
8	46.22	1,295.50	5,488.74
9	39.89	1,781.30	4,879.62
10	41.08	3,003.03	4,719.37
11	62.22	3,303.50	4,076.92
12	83.23	3,323.64	

収率: 180%

3. 6. 3 収 獲 量

表 252 収 獲 量: 1990年実績

川 別	作付面積 /cccho	収獲面積 /cccho	生産量 /cccho	収率 t/ha
サササササ	25.4	27.3	306.5	11,237
サシハコブ	15.7	15.7	276.0	17,602
サササササ	17.3	12.3	131.6	7,622
ハコブナ	5.1	5.1	68.5	13,440
ハコブナ	5.5	5.5	44.6	8,047
ハコブナ	2.8	2.8	34.2	12,473
その他	0.8	0.7	5.6	8,000
全国計	75.6	74.4	867.1	11,053

収率: 180%

表 253

玉ねぎ：1991年の生産状況(11年7月調査)

州別	作付面積 / 1000ha	収穫面積 / 1000ha	生産量 / 1000t	単収 / 10/ha
サン・ハロワ	15.6	15.5	296.1	19.025
サタ・カクリナ	23.0	22.7	289.0	10.735
ホクダツト・スル	17.2	17.1	110.9	6.465
ハ 1 ア	2.0	2.0	94.7	13.532
ホルナツコ	3.7	3.5	52.9	15.043
ハ 3 ナ	6.0	6.0	42.5	7.095
その他	0.8	1.0	25.1	25.000
全国計	77.5	77.0	891.2	11.575

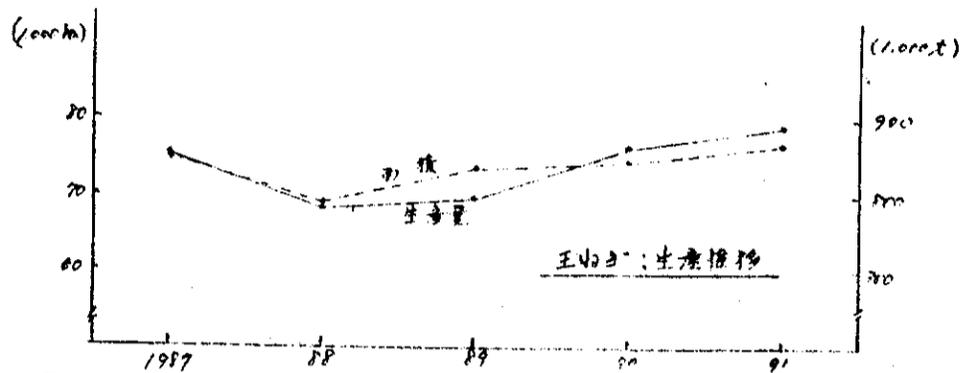


表 254

玉ねぎ：過去5年間の生産推移

州別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・ハロワ	222.5	266.3	283.9	296.0	296.1
サタ・カクリナ	261.4	211.7	267.6	206.5	289.0
ホクダツト・スル	116.7	124.3	127.4	131.6	110.9
ハ 1 ア	54.4	88.1	88.5	68.5	94.7
ホルナツコ	48.1	28.4	41.3	34.3	52.9
その他	40.9	61.1	48.6	50.2	47.6
全国計	854.0	780.3	797.3	867.1	891.2

収穫面積 / 1000ha

年	1987	1988	1989	1990	1991
収穫面積 / 1000ha	75.0	69.3	73.8	74.4	77.0

出所：189E

表 255

玉ねぎ：主要生産地の単収

州別	1987	1988	1989	1990	1991
サン・ハロワ	16.916	16.996	17.433	17.602	19.025
サタ・カクリナ	11.000	9.696	8.544	11.237	10.735
ホクダツト・スル	8.505	7.745	7.630	7.622	6.465
ハ 1 ア	14.645	11.765	12.253	13.440	13.532
ホルナツコ	11.186	12.113	12.080	12.473	15.043
全国平均	11.380	11.240	10.802	11.653	11.573

出所：189E

表 256

玉ねぎ：生産者受取価格

月別	1989	1990	1991
1	0.22	2.31	34.72
2	0.24	3.63	47.50
3	0.24	-	87.68
4	0.27	-	...
5	0.23	25.76	130.15
6	0.29	87.87	67.47
7	0.25	107.16	38.27
8	0.17	71.12	47.55
9	0.66	27.99	65.75
10	1.93	17.66	90.69
11	3.06	14.58	57.00
12	2.80	16.95	...

出所：189E

表 257 KANIKU : 1990年の生産実績

州 別	作付面積 / 100ha	収穫面積 / 100ha	生産量 / 1000t	単収 / t/ha
サトウ・カブリーナ	4.1	4.1	19.8	1.524
ミナソ・ミナソ	3.1	3.0	13.2	4.340
サトウ・サトウ	2.8	2.8	9.3	3.310
ゴウヤス	2.2	2.2	9.1	4.131
エスロフト・サト	1.5	1.5	6.3	4.223
ハナサ	1.3	1.3	4.3	3.373
サトウ・ハナサ	0.8	0.8	4.0	5.077
ハナサ	0.8	0.8	2.8	3.567
その他	0.6	0.6	2.3	3.833
全国計	17.2	17.1	71.1	4.195

出所: 189E

表 258 KANIKU : 1991年の生産状況(9月1日現在)

州 別	作付面積 / 100ha	収穫面積 / 100ha	生産量 / 1000t	単収 / t/ha
サトウ・カブリーナ	4.5	4.5	26.3	5.866
ミナソ・ミナソ	3.5	3.5	16.7	4.838
サトウ・サトウ	3.3	3.3	12.2	3.709
ゴウヤス	2.5	2.5	11.4	4.625
エスロフト・サト	1.1	1.1	6.4	5.927
ハナサ	1.3	1.3	5.0	3.800
サトウ・ハナサ	1.0	1.0	4.9	5.031
ハナサ	0.7	0.7	2.8	3.642
その他	0.5	0.5	2.0	4.000
全国計	18.4	18.4	87.4	4.768

出所: 189E

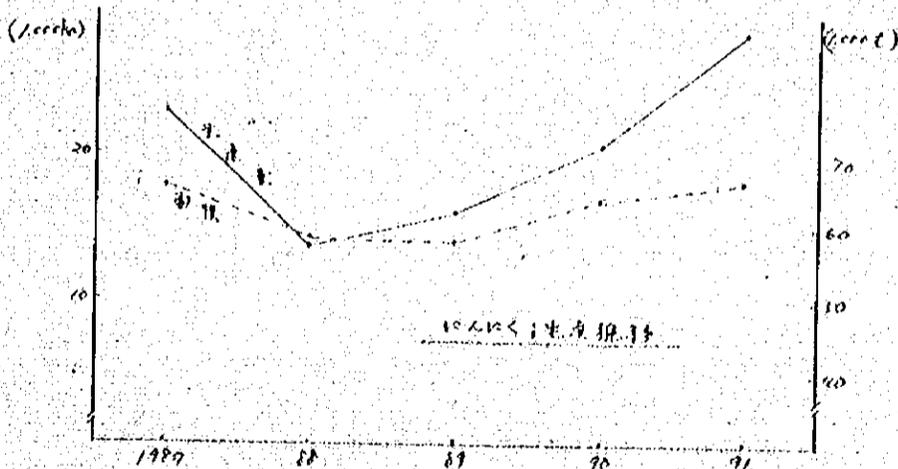


表 259 KANIKU : 過去5年間の生産推移

州 別	1987	1988	1989	1990	1991
サトウ・カブリーナ	24.4	13.5	15.9	19.8	26.3
ミナソ・ミナソ	17.1	13.1	13.3	13.2	16.7
サトウ・サトウ	3.0	6.9	2.0	9.3	12.2
ゴウヤス	6.0	6.1	6.9	9.1	11.4
エスロフト・サト	6.7	4.1	4.4	6.3	6.4
ハナサ	14.0	13.8	14.5	11.4	14.4
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
全国計	76.2	57.5	62.0	71.1	87.4

収穫面積 / 100ha	17.9	14.3	14.0	17.1	18.4
--------------	------	------	------	------	------

出所: 189E

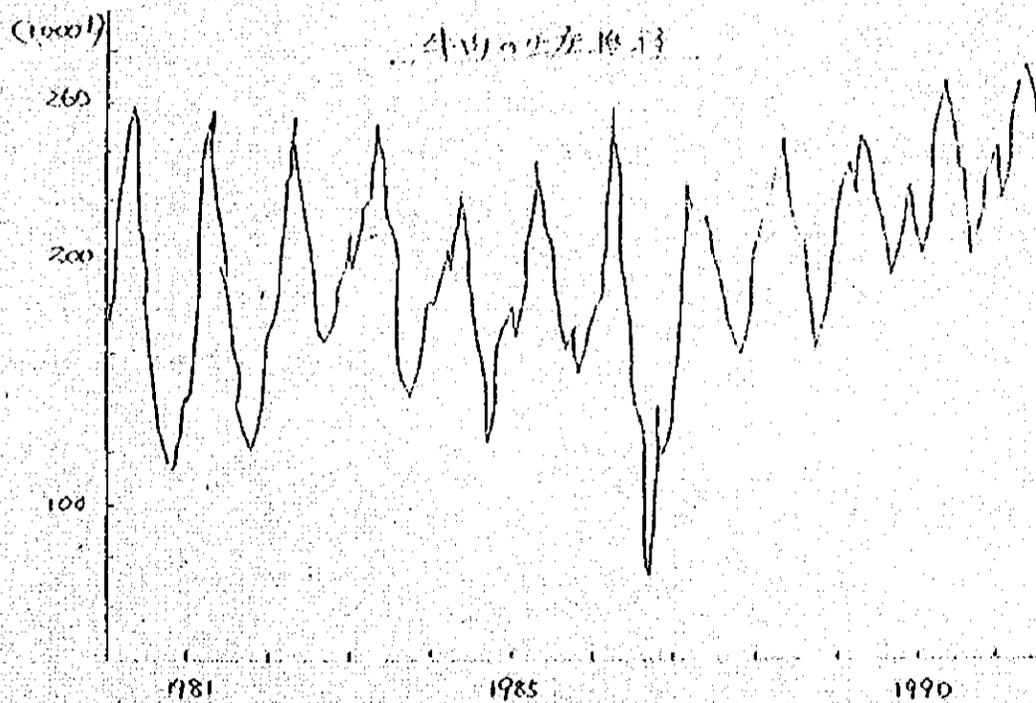
3.7 牧畜部

3.7.1 牛

1) 国内市場

1990年10月31日までの屠殺数調査の結果によると、1990年以降は130万頭の屠殺され、2.8百万トンの牛肉が生産された。1991年度については11月11日現在全体の総計は発表されていないが、このまでに判明している10月間の実績をみると屠殺数は前年同期を4%上回る9.3万頭、牛肉生産が2.2百万トンに達している。年間を通じ前年を3.5%増産した2.7百万トンの牛肉が生産されたものと推定されている。

牛肉の生産推移を示したグラフによると、毎年年度に生産量が増大し後半の環境期に減少する類似した傾向がみられる。これによると1986年クルーザー・プログラムによって実施された飼料の凍結を避けて生産を大中に増した地は、平均的に推移がみられるが、この傾向として年間にかつと下り中の減少に減少していることが観察される。



国内の牛肉需要については、全般的に困難な経済情勢下にある中で、比較的預貯金の供給態勢にあるため、1980年代後半の経済の中で消費者の購買力が低下し、農畜産品に対する需要も牛肉と比較してやや低下傾向、即ち牛肉類に移行したため、牛肉市場は大きな影響を受けることとなった。このような情勢下で91年を通じた牛肉の消費量は前年を約(-)4%増したものと推定

され、このよき影響の減退が牛肉価格に及ぼす影響を及ぼすようになった。

91年1月末に実施された物価の凍結を中心とする、ワシントン合意に外れた牛肉市場の混乱も短期間にはあり、当初高値をみせた肥育牛価格も3月以降、国内の主要市場にかき取りの正常化に従い振動されていった。牧畜生産者の牛肉の供給の減少に資金を以てしたことから、牛肉の売り手が増加し価格を押し上げたものである。

実質価格でみれば、前年度より落ちたものの91年の価格は、一応満足すべきものとされている。上半期の取引量は、1.5百万トンの平均価格は、ユーロ（15kg）あたり、17.00と前年対比実質(-)29%の下落であったが、下半期は24.00に戻っており、例年の平均価格と同等である。凍結期（10月）と収穫期（5月）との値の割りは、90年の62%であったのに対し91年は49%に落ちた。

1992年については、牛肉生産面では、91年の8月以降、全国的に外れた長期の乾燥により、牧畜の生産が、いささしく阻害されたものの、91年の生産レベルが維持される見込みである。

消費面については、依然として総くりセリコン下にかいて、楽観的見通しを及ぼすことは困難であるが、海外市場への販路は、近隣国に比して低い生産コストのフランス産肉が、肉の競争力や、トルボウソンの輸入を抑制している同国の代替率の問題、さらには、例年より減少した自給から輸入とくに米国内市場の輸入の復活が期待されている。

表 260 牛(肉用):生産者受取価格

月 別	牛(肉用):生産者受取価格		€/100kg
	1989	1990	
1	77.07	1,252.52	16,774.24
2	94.13	3,289.93	24,316.47
3	115.50	5,079.24	26,568.32
4	154.30	5,515.57	31,396.60
5	213.54	7,960.17	33,526.00
6	273.76	11,210.98	37,670.44
7	283.83	11,678.03	42,147.05
8	283.88	12,396.37	54,222.84
9	432.07	15,341.18	55,362.81
10	418.91	15,566.14	68,922.38
11	562.60	13,031.08	78,201.89
12	862.47	13,200.21	

取所: 1FA

表 261 牛(放牧):生産者受取価格

月 別	牛(放牧):生産者受取価格		€/100kg
	1989	1990	
1	181.50	4,218.09	34,029.17
2	202.39	6,253.67	44,959.10
3	232.96	8,862.41	48,903.50
4	293.24	11,011.82	55,298.12

1	157.12	14,152.25	57,927,414
2	196.01	20,182.19	65,619.71
3	537.80	20,813.13	76,683.25
4	790.00	23,480.86	97,832.18
5	867.37	27,744.16	109,214.70
6	732.17	27,974.18	148,120.10
7	1,216.47	25,676.87	172,477.25
8	1,982.67	25,912.06	

出所: IFA

表 262 牛(肥育牛):生産者受取価格 (円/kg)

月別	1989	1990	1991
1	18.23	431.82	3,547.71
2	18.94	652.45	4,443.07
3	20.33	1,000.03	4,465.10
4	25.46	1,082.26	4,231.98
5	23.16	1,264.46	4,944.44
6	50.47	1,760.38	5,722.83
7	50.65	1,830.36	7,230.34
8	82.47	2,170.90	9,586.45
9	86.56	2,777.06	10,812.29
10	97.79	2,788.97	15,804.08
11	151.92	2,662.73	18,321.54
12	226.46	2,665.12	

出所: IFA

表 263 牛(10kg以上の乳牛):生産者受取価格 (円/kg)

月別	1989	1990	1991
1	3296.35	9,384.39	77,037.71
2	425.87	14,872.09	95,331.72
3	505.89	18,623.81	105,548.50
4	568.45	24,421.36	123,620.40
5	721.11	34,174.83	136,000.00
6	1,062.89	46,938.26	158,395.00
7	1,082.93	61,322.60	183,886.00
8	1,715.52	69,007.53	212,606.20
9	2,228.19	72,835.28	236,502.40
10	2,504.29	79,488.43	278,545.00
11	3,704.01	69,773.40	326,744.20
12	4,396.23	69,244.36	

出所: IFA

ロ) 国際市場とブラジルの輸出

91年9月にUSDAが行った調査によると1991年度における世界の牛肉生産量は48.2百万トンと推定されている。これは前年の90年に記録された48.5百万トンと殆んど同レベルである。

世界の主要生産国の中では、米国(前年比10%増)、ブラジル(2.3%増)、ニュージーランド(5.1%増)、日本(2.2%増)等の増加があるが、反面、EC(-0.9%)、トルセンタン(-0.4%)、オーストラリア(-0.2%)

シリアル(1.7%)等に生産の減少が見られる。

1991年における世界の牛肉輸入量は前年を3.0%増加して3.3億トンに達したと推定される。又輸出は輸出量を合計、4.2億トンの見込みでEC(前年比120%)、オーストラリア(5.0%)、米国(3.5%)等の増加が認められる。

91年度における世界の牛肉消費量は47億トンと推定されており、90年の消費量を1.0%増加している。又91年末の期末在庫は1.4億トンと推定されており、その60% EC圏に保有されている。

1992年度については、世界の生産量が2.0%増加して49億トンに達する見込みが打ち出されている。92年以降期待される世界経済の回復から牛肉需要を復活させ、世界の牛肉取引を活性化させ、価格に良好な影響を与えようとの期待である。92年における世界の生産分布は、中国20%、EC19%、米国15%、ロシア連邦12%、東ヨーロッパ6%、ブラジル4%、その他20%の割合と予想されている。

表 264 世界の牛肉取引(生産量)

国	別	1989	1990	1991	91/90
米	国	10,633	10,464	10,566	10
ソ	連	8,800	8,900	8,900	-
E	C	2,840	2,722	2,846	-0.9
アルゼンチン		2,600	2,650	2,640	-0.4
ブラジル		2,660	2,835	2,900	2.0
オーストラリア		1,565	1,695	1,697	-0.2
ニュー・ジーランド		550	470	494	5.1
日	本	548	545	557	2.2
シリアル	イ	376	349	317	-9.7

(輸出量)

E	C	1,005	834	976	17.0
オーストラリア		872	1,050	990	-5.7
米	国	464	456	472	3.5
ニュー・ジーランド		435	389	377	3.0
アルゼンチン		360	425	340	-20.0
ブラジル		300	300	280	-6.6
シリアル	イ	177	190	125	-34.2

(輸入量)

米	国	988	1,068	1,030	-3.6
日	本	478	520	500	-3.8
E	C	455	427	300	-6.3
ソ	連	150	250	200	-20.0
ブラジル		160	180	180	-

		(単位: 億円)			
米	別	11,175	11,020	11,181	1.2
ソ	別	8,945	8,945	8,885	0.6
E	C	2,355	2,194	2,200	0.1
パ	ソ	2,980	2,950	2,350	1.0
ソ	セ	2,240	2,240	2,200	1.8
U	米	286	2,059	1,135	2.2
オ	ス	200	660	805	2.8
ソ	ル	173	180	180	-
ニ	ソ	125	119	118	0.8

出所: (1521)

ABIEC (ブラジル肉類加工業協会) の発表によると 1991年度に於ける牛肉の輸出量は前年比 16.6% 上昇した 315 千トン、金額は 370 億ボトルの収入を得た。これは前年を 62.2% 上回る大規模なものとなった。

他方、国内の大手工場が SAHIA 社に於けると、91年度に於ける肉類輸出の増加は 91年々頭にかつた牛肉加工肉の価格上昇にともなうものであり、又 EC の高級肉に対して行った EEC 判当料展 (COIT HILTON) の中で「ブラジル」への判当料が前年の 1,000 トンより 91年は 6,600 トンへと 7倍近くに増加したことに加えられる。HILTON 判当に含まれる牛肉の相場は普及肉よりも 2倍から 200 トル高値で取引されており、その結果として「ブラジル」でも 13 億ボトルの収入増加と見られる。これも輸出増の大きな要因となる。91年度に於ける牛肉輸出増加の他の理由として EC より打戻された 100,000 トンの輸入に伴い、牛肉を輸入して国内市場を安定させたことも加えられる。

又、政府の価格調整に伴い、一般市場の相場期を短くして世界的な動向を押し渡す時期には「ブラジル」の価格に高騰したことも牛肉相場を 25% ~ 28% 押し上げる要因を示した。このように国内市場の安定が余剰品の海外輸出を計画的に押し上げる理由である。

輸出された牛肉は生肉と加工肉に分けられると、生肉の輸出量は 90年の 108 千トンに対して 91年は 126 千トン、これは外貨収入 90年 82.2 億ボトルより 91年 148 億ボトルへと伸びた。又加工肉の方は輸出量が前年の 162,000 トンより 91年は 189 千トンへと増加した。その輸出収入は 90年の 130.8 億ボトルより 91年には 222 億ボトルへと上昇振りであった。

91年中、ブラジルの牛肉輸出に於ける特筆すべき事項は 9月以降米国内市場が買手不足に陥ったことである。米国内市場はブラジルの政府による衛生管理の不足、畜産に対するホルモンの使用に対する政府の監督不行届など、理由として 1年2ヶ月間にわたって「ブラジル」からの牛肉輸入を中止していたことがあった。

91年9月以降、この障害を除却されたが、^{米の後半} 12月の半ばに輸入再開された。対米輸出量は 11.30 千トンに止まったものの、92年には輸出量を 345 千トンに伸ばし 140 億ボトルの外貨を得ることを目標とされている。

表 26.5 冷凍牛肉の輸出先別 (1990年)

輸出先国	重量 (t)	金額 × 1000
イギリス	9,449	21,190
イタリア	8,285	12,686
西独	3,580	8,772
オランダ	2,725	7,454
スペイン	3,767	6,706
香港	3,180	5,648
英国	1,776	3,490
オーストラリア	1,536	1,837
エジプト	1,957	1,755
レバノン	780	1,210
その他		
計	41,815	76,545

出所: Decer.

牛乳

1) 国内市場

1990年のデータによると1990年中、国内の工場に搬入された牛乳の量は、96億Lで前年を2.6%上回るものであった。これは各期に付削減の努力により、牧場の状態を改良して、乳牛の飼育能力を高めたことによる理由としているが、このほか、90年には、市場開放政策のもとで競争力のあるウルトラアン産牛の大量に輸入されたことにより、国内の加工処理量が減少し、その分牛乳の供給量が増加されたのも理由の一つとして加えられている。

91年1~8月間についてみると供給総量は62億Lで90年を0.6%上回っているが、この間5~8月間は、長期乾燥と汁IIコロール・フォームによる価格の統制から牛乳の供給量は、(-)5.0%の減少をみている。このため国内の大消費市場では、リセッションの中にかかわらず牛乳の供給不足が感じられた。大消費市場への供給不足は、他地方の工場が消費市場での選貨を避けるため他元や近隣地帯への販路を強化し、生産者への支払額を南りようとしたことも消費市場における供給不足に影響した。

今後の供給態勢については、短期的には国内の経済情勢如何にかかわり、中長期的には、価格の自由化が続けられる限り、より多くの生産態勢が形成される見込みである。従来重視のインフレ対策の中

価格統制が生産コストとの関係で生産を減少させる等のため、牧場の価格統制が継続する限り供給問題の解決が困難な状況にある。自由競争の中では、より効率的、より高い生産性により生産コストを低く抑え得るものが競争に勝ち残っていくことになり、正常な価格が形成されていくものと考えられている。又このような生産性の向上は、アフリカの乳業界が南部共同市場(MERCOSUR)の中で統合していく上で、下記の問題でもある。

生産性の向上を図る一つの手段としては、天然牧草に依存せず優良品種による牧草の育成が有効である。サンパウロ州の場合、20年と1986年~91年間に於ける牧場全体の面積増加率が合計で1%であり、これに対し造成牧場の増加率は、3.9%を記録しており、牧場に投資されたことが明らかとなっている。これを1980~91年間で26回は同様の傾向が観察され、全体の増加率が4.5%であり、これに対し造成牧場の増加率は、1.3%であった。

表 266 サンパウロ州に於ける牧場面積 (ha)

年度	天然牧場	造成牧場	計
1980	2,797	2,108	9,907
81	2,663	6,966	9,629
82	2,814	7,248	10,062
83	2,882	7,372	10,254
84	2,664	7,572	10,236
85	2,808	7,613	10,421
86	2,543	7,810	10,353
87	2,530	7,740	10,270
88	2,511	7,616	10,127
89	2,852	7,670	10,522
90	2,351	7,804	10,155
91	2,348	8,007	10,355

出所: IEA, CATT.

サンパウロ州内の乳牛数については、純粋の乳牛と、肉牛と兼用する乳牛の二つの種類に大別されるが、1986年より91年間の推移を見ると純粋種の減少(-5%)とこれに対し混合種の23.7%増加しているのが統計として表わされている。

表 267

年度	乳牛	混合	肉牛	計
1980	3,804	...	6,867	10,671
81	3,871	...	6,679	10,550
82	3,949	...	6,643	10,591
83	4,103	...	6,532	10,635
84	4,146	...	6,584	10,730
85	4,706	...	6,144	10,850
86	2,895	2,306	6,859	11,060

87	2,296	2,586	6,110	10,572
88	2,325	2,426	6,163	11,217
89	2,320	2,547	6,214	11,711
90	2,225	2,126	6,068	11,699
91	2,112	2,116	6,115	11,760

出所: IEA, GATI.

→ パロウ州に別注牛乳の生産者受取価格及び交換係数として乳牛頭を購入するに必要として牛乳の量及び飼料1kgを購入するに必要として牛乳の量は、次の通りである。

表 268 牛乳(C型)の生産者受取価格(91年10月=100として実価価格) %

月別	1987	88	89	90	91
1	203	159	156	147	127
2	183	162	154	156	130
3	144	158	148	157	121
4	208	163	141	145	116
5	164	171	127	123	113
6	211	164	131	123	122
7	215	154	136	112	123
8	207	154	137	116	121
9	194	149	133	116	123
10	201	155	127	116	114
11	188	156	124	118	...
12	173	149	127	125	...
平均	193	158	138	130	120

出所: IEA.

表 269 乳牛(1頭)を購入するに必要として牛乳(C)の量 C

月別	1988	1989	1990	1991
1	928	1,108	2,368	1,088
2	823	1,194	1,908	1,035
3	843	1,381	756	1,173
4	894	1,761	961	1,273
5	777	2,112	1,364	1,428
6	923	2,404	1,813	1,309
7	1,082	1,710	2,047	1,346
8	1,078	1,739	1,902	1,442
9	1,105	1,613	1,906	1,439
10	1,165	1,371	1,776	1,512
11	1,189	1,264	1,336	...
12	1,310	1,181	1,091	...

出所: IEA.

表 270 飼料1kgを購入するに必要として牛乳の量 C

月別	1988	1989	1990	1991
1	0.72	0.56	0.92	1.09
2	0.72	0.54	1.00	1.03
3	0.70	0.54	2.89	1.05
4	0.58	0.60	2.91	0.95

5	0.60	0.58	1.57	0.97
6	0.51	0.54	1.64	0.85
7	0.36	0.44	1.40	0.94
8	0.63	0.46	1.17	0.93
9	0.61	0.48	1.10	0.92
10	0.71	0.56	0.90	0.89
11	0.28	0.59	0.87	...
12	0.63	0.43	0.87	...

出所: IFA

ロ) 国際市場

USDAのデータによると、1990年に列国の世界の牛乳生産量は、440.9百万トンで、89年を1%上回る量であった。又1991年については、前年を0.4%増加する442.7百万トンに算じられると推定されている。

世界の主要生産地帯では、EC圏に加えて乳製品のストックの増加に起因して従来行われてきた牛乳の生産割当てが緩和されたこと、又米圏では、90年中、価格の生産者も満足するレベルであったこと、及び91年の生産を制限してあり、またECに加盟した国も降雨の順調であったことや牛乳価格が良好であったこと及び基本的に米国の中心として行われていた生産量の継続的な増入等により、供給量を増加させた。

牛乳の副産物に関しては、主要生産国に列するバターや粉乳生産量の増加が、これに供給するにため、各種の措置が講じられた。又、年間1人当たり牛乳消費量の増加傾向やEC圏低所得国に対して打つた粉乳の輸出等は、牛乳の生産増加のための基本的な要因となっている。

1986年以降、世界の乳製品ストックは急速に減少し、それに伴う価格の上昇がみられた。
(この減少傾向は、1987年に最悪に達し、以後下落して現在にいたっている。)

表271 乳製品：世界の12月時点の在庫価格

年 度	乳 粉		バ ッ タ ー		プ ー ル	
	在庫 1,000t	価格 US\$/t	在庫 1,000t	価格 US\$/t	在庫 1,000t	価格 US\$/t
1986	1,661	680 ~ 720	2,078	800 ~ 1,150	1,538	1,000 ~ 1,200
1987	1,123	760 ~ 1,150	1,480	750 ~ 1,150	1,426	900 ~ 1,300
1988	483	1,150 ~ 2,050	792	1,350 ~ 1,550	1,418	1,250 ~ 2,050
1989	560	1,750 ~ 2,000	761	1,250 ~ 2,000	1,444	1,750 ~ 2,150
1990*	899	1,100 ~ 1,650	1,060	1,250 ~ 1,450	1,488	1,525 ~ 1,800
1991**	985	1,150 ~ 1,450	1,076	1,266 ~ 1,450	1,486	1,630 ~ 1,850

出所: USDA ※ 平準推定値 ** 予推値

222 豚

1) 国内市場

養豚生産者協会 (NPPC) のデータによると、1991年度の国内生産量は、前年を2.5%増加した。1.15億頭で、最近数年間増加してきた飼育頭数を反映した。この結果、全般的に購買力減退の前には供給過剰の状態を示している。

養豚生産者の受取価格は、8月まで比較的は安定していたが、主要飼料原料の値上げにより生産量が低く供給が不順であったため、その影響もあって価格は9月より上昇を開始した。しかし、飼料価格の上昇率から豚肉価格の値上げを上回ったため豚肉ととらえられ、大口の価格関係は悪化し養豚生産者の購買力も減少したと見られる。

毎年年末になるとクリスマスを中心として豚肉の需要が増加し、国内でもほとんどの活豚市場で価格が上がる。91年末は、北米に下にいる消費者の購買力減退に加え、中国と韓国からの供給量が増加したため、豚肉市場を更に悪化させることとなり、各市場で冷凍工場は大量のストックを保有し、採算中止の状態に陥った。

表 222 1988年10月をベースとした実質価格

月別	1988年10月をベースとした実質価格			
	1988	1989	1990	1991
1	8,122	15,055	10,640	9,484
2	8,196	15,074	8,340	10,074
3	9,701	15,510	7,761	10,297
4	10,289	18,648	8,477	10,212
5	9,352	23,760	10,706	10,499
6	9,700	26,895	13,960	10,704
7	11,255	18,306	13,507	10,718
8	11,033	15,702	12,578	10,978
9	10,954	12,171	13,069	9,842
10	11,544	9,550	11,062	8,983
11	13,421	9,475	9,407	
12	16,120	10,725	8,118	
平均	10,807	15,906	10,636	9,483

出所: IFA 1991年10月をベースとした実質価格

豚肉ととらえられ価格関係

表 223 (豚肉1kgの豚糞代金の購入単価ととらえられ量、kg)

月別	1988	1989	1990	1991
1	4.42	8.13	7.11	5.71
2	4.80	8.56	7.37	7.24
3	6.85	9.12	6.64	8.29
4	7.94	11.56	6.67	7.73
5	6.58	14.78	8.01	7.44
6	7.35	15.28	10.02	8.03
7	8.32	12.81	8.78	8.94

8	7.28	13.12	8.32	8.15
9	6.72	8.67	7.05	7.38
10	6.89	7.87	7.35	6.72
11	3.59	7.47	5.17	...
12	7.10	8.51	4.41	...

出所: IFA

豚肉と大豆粕の価格関係

表 274

(豚肉1kgの飼料費と購入した大豆粕の量、kg)

月別	1988	1989	1990	1991
1	2.33	4.52	4.91	4.57
2	2.67	5.07	4.92	5.69
3	3.27	5.40	4.65	5.24
4	3.74	7.71	6.02	6.78
5	3.37	9.85	8.28	6.60
6	3.23	13.17	8.37	5.04
7	2.98	8.35	7.87	5.64
8	3.17	9.13	7.03	4.86
9	3.07	6.55	7.06	3.86
10	2.94	5.22	8.10	3.24
11	3.52	5.11	4.48	...
12	4.56	4.29	3.66	...

出所: IFA

豚肉価格の伸縮は思わぬほどに生産コストの上昇による生産者の飼育期間を短縮し結果的に供給量の傾向が支配的となつており、この状況が続く場合92年の供給量は減少が見込まれる。但し供給量の減少は価格の上昇を伴うものではなく、形質を肉割りの効果は高いと見られる。

今後の市況回復を期待出来るものとしては過去15年間にわたって続いたECへの輸出中断が解消されること、米国や日本などの強力な市場がブラジル産豚肉の輸入を開始する見込みがあることなどが挙げられる。業界ではこの3つの情勢変化により年間154千トンに達する現在の輸出規模を10倍の150千トンに拡大する期待を掲げている。このためにはECを中心とする輸先市場の整備に際して衛生管理の要求強化、又国内生産の40%、販売額の20%を占める南部3州の生産者を保護し生産を奨励する措置が必要となる。

1992年度の見通しも楽観的なものではなく、年頭には中国や、韓国との競争がある地域内自給の供給過剰が予想されるが、年明け以降は輸出増加見込みの前に5%程度の生産増加があるものと推定されている。養豚部門にとって重要な国内市場の拡大については、これを達成するための技術的指導が必要とされている。

ロ) 国際市場

USDAの発表によると1991年度に於ける世界の豚飼育頭数は、263百万頭で前年の257百万頭を0.5%増加させている。92年については、91年を更に1%増加するとの見通しがある。

1991年に於ける世界の豚肉生産量は、64.6百万トン、1992年はこれを2%増加する予定とされている。世界の市場ではヨーロッパと中国が最大の生産国かつ最大の消費国である。91年に於けるヨーロッパの豚肉生産量は、13.5百万トンで前年を(-)4%減少させた。92年もこの傾向を継続する見込みとされている。これは旧社会主義ブロックの農業部門換算の丹播成に伴い、旧東欧の生産量が大幅に落ちたことが理由とされている。これに対し中国の豚肉生産量は、前年を6%増加する24.6百万トンに達する見込みである。

3.2.2 豚

1) 国内市場

豚肉生産者協会(CPIMCO)によると1991年度に於ける豚肉の生産量は、2.6百万トンに達したと推定されている。この量は、前年を11%増加させた量である。

91年2月1日以降消費者価格の統制が行われこれにかかわらず、消費者の購買力減退から牛肉と豚肉への需要転換があったことや、コレラ問題から豚肉の消費が減り、これ又豚肉需要の増加に寄与したことから、国内の主要生産地帯(サンタカタリナ、サンパウル、パラナ、リオグランデ・ド・ミナス、ミナス・ジライス州)の生産部門の継続した成長がみられた。

上昇するコストと政府による販売価格の統制は生産者収益を圧迫したため生産量の増大はできず、輸出の増加によってカバーされた。消費価格の統制が解除された9月以降は、牛肉価格に平行して価格の上昇がみられた。

全国の飼育数は、8月以降増加を続け9月10日に、168.5百万羽に達し史上最大の記録となった。この飼育数は、前月を5.6%、前年の10月を11.3%増加するものであったが、当初の170百万羽に達すると見込まれていたものの、リセとコソ下の肉の消費がそれに伴わないとの見方があり減少されたのである。

10月には又1日比(100万羽)の雄肉増産に輸出の減少が原因として、9月比の雄肉増産のペースが低下した。

91年に例年と同様の雄肉消費増15.5kgと増産増10.1%の増加である。又飼料原料として大豆価格の上昇に伴い、雄肉と飼料の価格関係が甚だしく、91年の当初雄肉1kgの価格で2.18kgの配合飼料を購入することから、9月には1.60kg、10月には1.74kgと低く養鶏生産者の販売力が落ちていることが明らかとなっている。

表 275 雄肉1kgの価格で購入される配合飼料の量 (kg)

月別	1988	1989	1990	1991
1	1.64	2.65	2.16	2.18
2	2.14	2.78	2.45	2.53
3	2.19	3.03	3.07	2.17
4	2.57	3.26	2.80	2.12
5	2.15	4.37	2.06	2.22
6	2.31	4.66	2.43	2.04
7	2.46	3.75	2.56	1.66
8	2.21	3.60	2.27	1.57
9	2.74	3.27	2.87	1.60
10	2.52	2.06	2.25	1.74
11	2.25	2.23	1.49	...
12	3.03	3.46	1.42	...

出所: IEA

表 276 雄肉1kgの価格で購入される雄肉の量 (kg)

月別	1988	1989	1990	1991
1	1.92	1.65	2.01	1.72
2	1.60	1.61	1.67	1.66
3	1.37	1.60	1.93	1.71
4	1.58	1.31	2.04	1.70
5	1.76	1.31	2.06	1.65
6	1.65	1.48	2.29	1.13
7	1.67	1.14	1.68	2.04
8	1.72	1.99	1.68	2.44
9	1.70	1.72	1.75	2.47
10	1.77	1.84	1.72	2.59
11	1.66	1.91	1.88	...
12	1.77	1.48	1.85	...

出所: IEA

以上の状況にあるが、1992年度に例年と同様の雄肉生産は、飼料費の増加から91年を更に5%増産が見込まれている。

次に輸出側についてみると、全向のブライヤー輸出協会(CAEE)のデータによると91年のブライヤー輸出

平均 310千トンで前年を2%増加し、約400万トンの外貨を確保したと推定されている。このうち70%は輸出の増加によるもので、港費競争の影響を残している中東諸国から経済の形成を阻むための買付けを増加させたことと大きな理由とするものがある。これら需要の増加からブラジルの輸出価格は、1990年の平均価格909,-(FOB)より91年には1033,-(FOB)に上昇し、輸出額増加の理由となった。

ブラジルのプロビラ輸出は相変わらず中東及びヨーロッパを最大の顧客としている。91年にはアルゼンチン向けに6年振りの120千トン相当の輸出があったが、これは同国の供給面に異常があった特殊なケースであり、本来自給状態にあるアルゼンチンへの継続した輸出は考えられない。

ブラジルは米国とフランスに次ぐ世界第3位の輸出国であるが、米国とフランスは強力な輸出補助を行っているためブラジルの輸出が阻害されており、GATTによる調停を要する事項としてブラジル側の交渉が続けられている。

表 277
プロビラの輸出推移

年度	数量 1000t	金額 100万ドル	単価 100/t
1981	293.9	254.3	1.205
82	301.8	285.5	946
83	289.3	242.2	837
84	280.3	243.5	940
85	277.1	242.9	877
86	225.6	222.2	985
87	210.8	215.9	1,024
88	236.6	235.0	993
89	235.0	262.0	1,115
90	211.5	192.3	909

出所: CACEX, DECEX

表 278
プロビラの輸出国別(1990年)

輸出国	数量 1000t	金額 100万ドル
ブラジル・アラブ	98.1	91.4
ヨーロッパ	26.5	25.3
アジア	19.7	16.0
アラブ諸国連邦	13.6	12.4
アフリカ	13.4	10.8
オーストラリア	6.8	6.1
パナマ	5.9	5.4
インドネシア	5.0	4.3
カリフォルニア	4.0	3.6
その他	18.5	17.0
計	211.5	192.3

サンパウロ州養鶏協会(CPA)によると1991年度に飼育卵の国内生産量は、39.90万箱(30

増入)を前年比2%増加、1992年は前年較の増加から同率の増加を予想されている。

国内生産の40%を占めるサトウハゴロウでは換算量の増加に対し消費が減退したため91年下半期には印と原料の価格関係が悪化したため、養蚕収量を圧迫された。この影響は、養蚕量も減少したため、海外への輸出も減少した。現在91年11月より92年2月にかけて、15万トン、600千トンの輸入契約が養蚕場のフォローによって行われている。

表 279 91年11月の価格で購入出来た産物と原料の量 (kg)

月別	1988	1989	1990	1991
1	0.94	1.66	1.00	1.33
2	1.47	1.74	1.15	1.19
3	1.82	1.95	2.48	1.32
4	2.14	2.19	2.25	1.88
5	1.91	2.62	1.64	1.75
6	1.80	3.32	1.64	1.46
7	1.90	3.03	1.81	1.21
8	1.96	2.70	1.88	1.06
9	1.49	1.55	1.43	1.00
10	1.44	0.98	0.97	0.88
11	1.27	0.97	0.85	...
12	1.60	1.42	0.83	...

出所: IFA.

3. 8. 林業部内

109E (つぎの地理統計院) の 1991 年度年報 1-13E 1989 年度 10 月 43 年度の
州別木材、木炭及の新産産量(天然林)の推移を示す

表 280 全国の木材、木炭及の新産産量 (天然林) 1,000 m³

州別	木材	木炭	新
北海道	43,138.7	75.8	27,388.8
青森県	2,255.4	1,009.6	967.7
岩手県	626.0	-	-
その他	-	-	-
小計	47,486.3	81.5	28,689.2
東北地方			
宮城県	7,790.3	135.3	20,357.6
秋田県	999.8	183.4	7,098.9
山形県	895.0	6.3	1,734.1
福島県	877.5	49.9	12,163.9
茨城県	93.0	23.4	3,360.8
その他	-	-	-
小計	21,826.9	503.7	33,596.1
中部地方			
新潟県	1,659.9	3.3	5,055.9
富山県	586.2	244.8	3,954.8
石川県	397.8	259.4	1,614.0
その他	-	-	-
小計	2,643.9	807.6	10,624.8
関東地方			
山梨県	627.7	1,892.9	13,019.2
長野県	246.7	36.3	9,150.6
群馬県	84.2	24.4	265.1
栃木県	281.4	2.6	409.6
小計	982.0	1,956.2	17,844.5
関西地方			
和歌山県	3,397.2	68.7	6,050.4
奈良県	2,176.7	171.1	10,066.0
和歌山県	332.4	2.1	7,386.9
小計	9,606.3	242.1	20,503.3
全国	65,850.4	3,591.0	115,251.9

出所: ANUARIO ESTADISTICO 1991

表 281 全国の木材及の新産産量(植林) 1,000 m³

地域及州別	木 材		木 炭	新
	紙、セルロース原料	その他目的		
北海道				
宮城県	1,114.0	-	-	-
秋田県	333.8	-	-	22.2
小計	1,447.8	-	-	22.2
東北地方				
山形県	-	67.6	-	104.4
福島県	-	-	-	86.6
宮城県	145.4	106.5	91.5	435.7

全 国	145.4	174.4	91.5	626.7
中部地方				
対支店・支店	318.0	25.4	119.8	1,047.6
支 店	-	3.3	129.0	256.3
支店	-	27.9	26.5	77.3
小 計	318.0	128.6	275.3	1,382.1
関東地方				
支店・支店	1,071.3	2,373.9	1,289.5	4,184.9
支店	1,003.5	16.4	47.0	218.0
支店	118.4	8.1	0.6	128.0
支店	10,913.6	4,369.9	1,834	9,073.5
小 計	13,906.8	6,768.4	1,490.5	13,551.4
南部地方				
支店	11,783.8	2,171.1	8.7	1,553.6
支店	2,710.8	3,028.9	-	1,262.6
支店	1,252.9	1,420.5	34.9	5,219.1
小 計	16,247.5	6,720.5	43.8	8,035.3
全 国	22,065.5	13,791.9	1,891.2	23,622.9

出 典: ANUARIO ESTADISTICO '91

< 参考資料 >

RELATÓRIOS DO BANCO CENTRAL DO BRASIL	ブラジルの中央銀行
ANUÁRIO ESTATÍSTICO DO BRASIL 1991	ブラジルの統計院
LEVANTAMENTO SISTEMÁTICO DA PRODUÇÃO AGRÍCOLA	合上
INFORMAÇÕES ECONÔMICAS	ブラジルの経済的、農業経済研究所
MERCADO EXTERIOR	ブラジルの外貨管理局
CRÉDITO MERCANTIL	カウチン・バンク
FOUNDAÇÃO DE SÃO PAULO	サンパウロ・インベスチメント
その他業界資料各院	

報告作成

1992年2月10日

ブラジルのサンパウロ市

TALK CONSULTORIA ECONOMICA LDA.

